

〈教育職員養成課程科目〉

☆国語科教育法Ⅰ

科目分類	111-411-13（J）	授業コード	O80220
科目名称	☆国語科教育法Ⅰ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching Methods I	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。		
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して高等学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	野中 潤	【第 1 回】 予習：新しい学習指導要領に基づく各社の教科書（現代の国語、言語文化、論理国語、古典探究など）の概要を調べる 授業：これからの時代に向けて国語科教育に求められているもの 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
2	野中 潤	【第 2 回】 予習：「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」の内容の構成や授業時数について確認する 授業：話すこと・聞くことの授業 1（双六対話・グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
3	野中 潤	【第 3 回】 予習：高等学校の各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数について確認する 授業：文学的な文章を読むことの授業（クラウド共有ファイルによる「問い立て」・ワークショップ） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
4	野中 潤	【第 4 回】 予習：クラウド共有ファイルに書き込まれた他の受講生の「問い立て」を確認する 授業：「問い立て」を利用して場面ごとに主たる発問を考える 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
5	野中 潤	【第 5 回】 予習：場面ごとの主たる発問に対する答えを考える 授業：主たる発問を活用した選択式問題と正解選択肢、不正解選択肢を作成する（グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
6	野中 潤	【第 6 回】 予習：漢字テストの採点基準についての動画を視聴する 授業：漢字や語彙の学習と自動採点テストの活用（グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
7	野中 潤	【第 7 回】 予習：事前課題アンケートに回答する 授業：話すこと・聞くことの授業 2（哲学対話・グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
8	野中 潤	【第 8 回】 予習：哲学対話で得られた考えを文章にまとめる 授業：哲学対話で得られた考えを発表する 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
9	野中 潤	【第 9 回】 予習：『学習評価の在り方ハンドブック』高等学校編を読む 授業：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を読む（ABD・ワークショップ） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	
10	野中 潤	【第 10 回】 予習：板書についての動画を視聴する 授業：板書・発問・プリント作成の方法（ジグソー法・グループワーク） 復習：講義ノートに学習内容をまとめる	

11	野中 潤	【第 11 回】 予習 : 担当テーマのスライドを作成する 授業 : 板書・発問・プリント作成の方法を動画にまとめる (エキスパート活動・グループワーク) 復習 : 講義ノートに学習内容をまとめる							
12	野中 潤	【第 12 回】 予習 : 他の受講生の動画を視聴する 授業 : 板書・発問・プリント作成の実験 復習 : 講義ノートに学習内容をまとめる							
13	野中 潤	【第 13 回】 予習 : 新しい学習指導要領に基づく高等学校の教科書を図書館で閲覧する 授業 : 任意の科目の教科書を観点を決めて精読し、ポイントをまとめる (グループワーク) 復習 : 講義ノートに学習内容をまとめる							
14	野中 潤	【第 14 回】 予習 : 他のグループがまとめた内容を参照しながら、図書館で教科書の内容を再確認する 授業 : 模擬授業で取り上げたいものを選び、教材研究する (個人ワーク) 復習 : 講義ノートに学習内容をまとめる							
15	野中 潤	【第 15 回】 予習 : これまでの授業を振り返り、講義ノートを整理する 授業 : これからの時代に求められる授業を実践するために必要なこと 復習 : 講義ノートに学習内容をまとめ、半期の授業をふりかえる							
授業開始前学習		1 人 1 台端末の整備や生成 AI の利活用に関する取り組みなど、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などでも公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		適宜資料を配信する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 (授業参画度・課題提出) 7 0 %、講義ノート3 0 %							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		授業中に情報端末を使います。パソコン教室を利用できるようにしますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。							

国語科教育法Ⅱ

科目分類	111-411-13（J）			授業コード	O80240
科目名称	国語科教育法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	野中 潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのを実践的に学ぶ。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、高等学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのかを、主体的に探求することができるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	野中 潤	【第 1 回】 予習：高等学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について確認する 授業：指導案の基本的な書き方（課題解決型学習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
2	野中 潤	【第 2 回】 予習：高等学校国語科の教材を読む 授業：教材の読み合わせと教材価値の確認（グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
3	野中 潤	【第 3 回】 予習：授業プランを書く 授業：単元指導計画の検討（グループワーク） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
4	野中 潤	【第 4 回】 予習：本時案の草案を作る 授業：シナリオ型指導案の作成（発表） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
5	野中 潤	【第 5 回】 予習：補助教材を作る 授業：補助教材の検討（ディスカッション） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
6	野中 潤	【第 6 回】 予習：加筆修正された本時案に基づき、単元指導計画を修正する 授業：模擬授業のシミュレーション（発表） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
7	野中 潤	【第 7 回】 予習：古文の模擬授業の準備 授業：古文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
8	野中 潤	【第 8 回】 予習：漢文の模擬授業の準備 授業：漢文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
9	野中 潤	【第 9 回】 予習：評論文の模擬授業の準備 授業：評論文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
10	野中 潤	【第 10 回】 予習：物語文の模擬授業の準備 授業：物語文の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			
11	野中 潤	【第 11 回】 予習：随筆の模擬授業の準備 授業：随筆の模擬授業（実習） 復習：学習内容を講義ノートにまとめる			

12	野中 潤	【第 12 回】 予習 : 模擬授業の問題点を見直す 授業 : 模擬授業のふりかえり（ワールドカフェ方式） 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
13	野中 潤	【第 13 回】 予習 : 自分が担当した教材の導入を再検討する 授業 : 導入の語り（ミニ模擬授業） 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
14	野中 潤	【第 14 回】 予習 : 自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業 : まとめの語り（ミニ模擬授業） 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
15	野中 潤	【第 15 回】 予習 : これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業 : これからの国語科教育を考える 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる							
授業開始前学習		学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP など で公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		適宜資料を配信する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点（授業参画度・課題提出） 7 0 %、講義ノート3 0 %							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		授業中に情報端末を使います。パソコン教室を利用できるようにしますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。							

科目分類	111-411-13 (J)	授業コード	O80260
科目名称	国語科教育法Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅢ	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。		
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して中学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	野中 潤	【第 1 回】 予習 : 中学校学習指導要領の国語科の改訂のポイントを調べる 授業 : 国語科の特徴・特質をカードに書き出し、思考ツールを使って比較・分析してまとめる (発散→収束) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
2	野中 潤	【第 2 回】 予習 : 国語科の特徴・特質について、他の受講生の考えをクラウド共有された資料で確認する 授業 : 国語科の特徴・特質の小論文作成 (協働作業によるパラグラフィティング・グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
3	野中 潤	【第 3 回】 予習 : 小論文で担当したパラグラフをナレーションの録音用カードを作成する 授業 : 小論文の音読カードを作成し、互いに視聴してフィードバックし合う (リレー形式のプレゼンスライド作成・グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
4	野中 潤	【第 4 回】 予習 : 「言語技術教育」について、概要を調べる 授業 : 読み手が図形を再現できるような説明文を、読み手の立場に立って表現を整えながら作成する 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
5	野中 潤	【第 5 回】 予習 : 「やさしい日本語」について調べる 授業 : 「やさしい日本語」のグループ学習 (張り紙表現の修正・グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
6	野中 潤	【第 6 回】 予習 : メディアリテラシーについて調べる 授業 : メディアリテラシーに関する探究 (ジグソー法・グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
7	野中 潤	【第 7 回】 予習 : エキスパート課題について調べる 授業 : メディアリテラシーに関する課題をまとめる (ジグソー法・発表) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
8	野中 潤	【第 8 回】 予習 : メディアリテラシーのポイントをスライドにまとめる 授業 : メディアリテラシーについて学ぶ絵本の構成を考える (協働作業・グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
9	野中 潤	【第 9 回】 予習 : 絵本の担当ページのテキスト部分を作成する 授業 : メディアリテラシーについて学ぶ絵本を完成させる (協働作業・グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
10	野中 潤	【第 10 回】 予習 : 百人一首について調べる 授業 : ロイロノート・スクールによる百人一首の学習 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
11	野中 潤	【第 11 回】 予習 : 担当する歌について調べる 授業 : 百人一首カルタの取り札と読み札をつくる (個人ワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	

12	野中 潤	【第 12 回】 予習 : 取り札と読み札を確認する 授業 : ロイロノート・スクールによる百人一首カルタ大会 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
13	野中 潤	【第 13 回】 予習 : 公開されている文学的な文章の授業案を調べる 授業 : 文学的な文章の授業案を追試する (ワークショップ) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
14	野中 潤	【第 14 回】 予習 : 公開されている説明的な文章の授業案を調べる 授業 : 説明的な文章の授業案を追試する (ワークショップ) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
15	野中 潤	【第 15 回】 予習 : 中学校学習指導要領の国語科の改定のポイントを再確認する 授業 : 講義ノートの相互閲覧によるふりかえり 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめ、半期の授業全体をふりかえる							
授業開始前学習		学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP など公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		適宜資料を配信する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 (授業参画度・課題提出) 70%、講義ノート30%							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		授業中に情報端末を使います。パソコン教室を利用できるようにしますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。							

科目分類	111-411-13 (J)	授業コード	O80280
科目名称	国語科教育法Ⅳ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅣ	授業区分	講義
科目責任者	野中 潤	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中 潤	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのを実践的に学ぶ。		
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、中学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのを実践的に探求することができるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	野中 潤	【第 1 回】 予習 : 中学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について確認する 授業 : 指導案の基本的な書き方 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
2	野中 潤	【第 2 回】 予習 : 「中学国語」の教材を読む 授業 : 教材の読み合わせと教材価値の確認 (グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
3	野中 潤	【第 3 回】 予習 : 授業プランを書く 授業 : 単元指導計画の検討 (ディスカッション) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
4	野中 潤	【第 4 回】 予習 : 本時案の草案を作る 授業 : シナリオ型指導案の作成 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
5	野中 潤	【第 5 回】 予習 : 補助教材を作る 授業 : 補助教材の検討 (ディスカッション) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
6	野中 潤	【第 6 回】 予習 : 加筆修正された本時案に基づき、単元指導計画を修正する 授業 : 模擬授業のシミュレーション (グループワーク) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
7	野中 潤	【第 7 回】 予習 : 古文の模擬授業の準備 授業 : 古文の模擬授業 (実習) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
8	野中 潤	【第 8 回】 予習 : 漢文の模擬授業の準備 授業 : 漢文の模擬授業 (実習) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
9	野中 潤	【第 9 回】 予習 : 評論文の模擬授業の準備 授業 : 評論文の模擬授業 (実習) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
10	野中 潤	【第 10 回】 予習 : 物語文の模擬授業の準備 授業 : 物語文の模擬授業 (実習) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	
11	野中 潤	【第 11 回】 予習 : 随筆の模擬授業の準備 授業 : 随筆の模擬授業 (実習) 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる	

12	野中 潤	【第 12 回】 予習 : 模擬授業の問題点を見直す 授業 : 模擬授業のふりかえり（ワールドカフェ方式） 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
13	野中 潤	【第 13 回】 予習 : 自分が担当した教材の導入を再検討する 授業 : 導入の語り（ミニ模擬授業） 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
14	野中 潤	【第 14 回】 予習 : 自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業 : まとめの語り（ミニ模擬授業） 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめる							
15	野中 潤	【第 15 回】 予習 : これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業 : これからの国語科教育を考える 復習 : 学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる							
授業開始前学習		学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP など で公開されている情報を学習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		適宜資料を配信する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点（授業参画度・課題提出） 7 0 %、講義ノート 3 0 %							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		授業中に情報端末を使います。パソコン教室を利用できるようにしますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。							

科目分類	113-411-13 （J）			授業コード	O80300
科目名称	☆英語科教育法Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅠ			授業区分	講義
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 英語科教育の目的について理解し、説明できる。 2. 高等学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる。 3. 高等学校の英語の指導法について理解し、説明できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：1 年間の学びについて目標を立てる。 授業：オリエンテーション（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業で学んだことをノートにまとめる。			
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：高校の英語の授業で行った活動を書き出す。 授業：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返り（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返りから学んだことをノートにまとめる。			
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：自分が使った高校の教科書を読む。 授業：教科書分析（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：教科書分析を通して学んだことをノートにまとめる。			
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：学習指導要領をインターネットで調べる。 授業：学習指導要領の内容確認（変遷・目的）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学習指導要領について学んだことをノートにまとめる。			
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：自分が受けた「コミュニケーション英語」の授業を振り返る。 授業：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について学んだことをノートにまとめる。			
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：自分が受けた「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について振り返る。 授業：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について学んだことをノートにまとめる。			
7	中野 達也	【第 7 回】 予習：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業：語彙指導・文法指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。			
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：授業中にどのような英語でのやりとりがあったか振り返る。 授業：英語によるインタラクション方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：英語によるインタラクション方法について学んだことをノートにまとめる。			
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：自分が受けた A L T とのチーム・ティーチングについて振り返る。 授業：A L T とのチーム・ティーチングについて（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：A L T とのチーム・ティーチングについて学んだことをノートにまとめる。			
10	中野 達也	【第 10 回】 予習：自分が受けてきた授業形態について振り返る。 授業：生徒の特性や習熟度への対応方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：生徒の特性や習熟度への対応方法について学んだことをノートにまとめる。			

11	中野 達也	【第 11 回】 予習：自分が使用した教材について振り返る。 授業：教材研究方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：教材研究方法について学んだことをノートにまとめる。							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習：指導案の形式について調べ学習をする。 授業：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究について学んだことをノートにまとめる。							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習：担当教員の指導案を予習する。 授業：担当教員による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：担当教員による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習：模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：模擬授業のふりかえりをノートにまとめる。							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習：前期に習ったことをノートで振り返る。 授業：高等学校の授業についての学びの総括（前期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：後期にどのように生かすかを考える。							
授業開始前学習		自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材		初回の授業で指示する。							
参考書		適宜指示する。							
評価の基準と方法		ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類	113-411-13（J）			授業コード	O80320
科目名称	英語科教育法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 高等学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2. 高等学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：「英語科教育法Ⅰ」の授業を振り返る。 授業：前期の「英語科教育法Ⅰ」の復習（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業で学んだことをノートにまとめる。			
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：高校の英語の授業を振り返る。 授業：復習・導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：復習・導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。			
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：自分が使った高校の教科書を読む。 授業：文法・教科書本文導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：文法・教科書本文導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。			
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：自分が受けた語彙指導を振り返る。 授業：語彙指導の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：語彙指導の工夫について学んだことをノートにまとめる。			
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：自分が受けた英語の進め方を振り返る。 授業：授業展開の工夫、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業展開の工夫、教材研究について学んだことをノートにまとめる。			
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：教科書の内容を定着させるために工夫したことを整理する。 授業：定着活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：定着活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。			
7	中野 達也	【第 7 回】 予習：自分が受けた ICT 機器を活用した英語の授業について振り返る。 授業：ICT 機器を活用した授業の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：ICT 機器を活用した授業の工夫について学んだことをノートにまとめる。			
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：模擬授業に向けた準備をする。 授業：模擬授業に向けた指導案作成の準備（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：模擬授業に向けた指導案作成の準備から学んだことをノートにまとめる。			
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：指導案作成の準備をする。 授業：模擬授業に向けた指導案作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。			
10	中野 達也	【第 10 回】 予習：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅰ）の準備をする。 授業：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。			

11	中野 達也	【第 11 回】 予習：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅱ）の準備をする。 授業：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習：模擬授業（英語表現Ⅰ）の準備をする。 授業：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習：模擬授業（英語表現Ⅱ）の準備をする。 授業：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習：模擬授業（ALT とのチーム・ティーチング）の準備をする。 授業：学生による模擬授業⑤（ALT とのチーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業⑤（ALT とのチーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習：前期に習ってきたことをノートで振り返る。 授業：学生による模擬授業⑤（ALT とのチーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：後期の授業のまとめをする。							
授業開始前学習		高等学校の英語の教科書と準拠 CD を使い、音読練習をすることが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材		初回の授業で指示する。							
参考書		適宜指示する。							
評価の基準と方法		模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケー ション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことの できる専門力と判断力の養 成		文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養 成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケー ション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容		中学校・高等学校教員と教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類	113-411-13（J）		授業コード	O80340	
科目名称	英語科教育法Ⅲ		単位数	2.0 単位	
英文名称	English Teaching MethodsⅢ		授業区分	講義	
科目責任者	中野 達也		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	中野 達也		開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-508	
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 英語科教育の目的について理解し、説明できる 2. 中学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる 3. 中学校の英語の指導法について理解し、説明できる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：自分が受けた中学の授業を振り返り、記憶に残っている活動をノートにまとめる。 授業：自分の受けてきた中学校の英語の授業の振り返り（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：授業で学んだことをノートにまとめる。			
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：中学の英語の授業を振り返る。 授業：新旧学習指導要領の違いについて（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：新旧学習指導要領の違いについて学んだことをノートにまとめる。			
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：自分が使った教科書を読む。 授業：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）で学んだことをノートにまとめる。			
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：Classroom English を書き出す。 授業：Classroom English を使った学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：Classroom English を使った学生による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。			
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：自分が受けた中学 1 年の英語の授業を振り返る①。 授業：中学 1 年の授業（導入）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学 1 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。			
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：自分が受けた中学 1 年の英語の授業を振り返る②。 授業：中学 1 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学 1 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。			
7	中野 達也	【第 7 回】 予習：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る①。 授業：中学 2 年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの提出（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学 2 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。			
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る②。 授業：中学 2 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学 2 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。			
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：自分が受けた中学 3 年の英語の授業を振り返る①。 授業：中学 3 年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの講評（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学 3 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。			

10	中野 達也	【第 10 回】 予習：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る②。 授業：中学 3 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：中学 3 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。							
11	中野 達也	【第 11 回】 予習：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業：語彙指導・文法指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習：自分が受けた音声指導・音読指導について振り返る。 授業：音声指導・音読指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：音声指導・音読指導について学んだことをノートにまとめる。							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習：指導案の形式について調べ学習をする。 授業：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究について学んだことをノートにまとめる。							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習：教師が作成した指導案を予習する。 授業：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：教師による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習：前期に習ってきたことをノートで振り返る。 授業：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：後期にどのように生かすかを考える。							
授業開始前学習		自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材		初回の授業で指示する							
参考書		適宜指示する。							
評価の基準と方法		ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類	113-411-13 (J)	授業コード	O80360
科目名称	英語科教育法Ⅳ	単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅣ	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。		
到達目標	1. 中学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2. 中学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：観点別評価について調べ学習する。 授業：学習到達目標・観点別評価について考える（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学習到達目標・観点別評価について授業で学んだことをノートにまとめる。	
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：アクティブ・ラーニングについて調べ学習する。 授業：アクティブ・ラーニングの取り入れ方について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：アクティブ・ラーニングの取り入れ方について学んだことをノートにまとめる。	
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：4 技能 5 領域について調べ学習する。 授業：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の 5 領域を統合した授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の 5 領域を統合した授業について学んだことをノートにまとめる。	
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：自分が受けた授業ではどれくらい英語が使用されていたか振り返る。 授業：英語で行う授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：英語で行う授業方法について学んだことをノートにまとめる。	
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：自分が受けた ALT との team teaching の授業を振り返る。 授業：ALT との team teaching の方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：ALT との team teaching の方法について学んだことをノートにまとめる。	
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：自分が受けた ICT を使った授業について振り返る。 授業：ICT を使った授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：ICT を使った授業方法について学んだことをノートにまとめる。	
7	中野 達也	【第 7 回】 予習：年間指導計画の立て方について調べ学習する。 授業：年間指導計画の作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：年間指導計画の作成について学んだことをノートにまとめる。	
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：自分が受けてきた英語の授業について振り返る 授業：評価方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：評価方法について学んだことをノートにまとめる	
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：指導案作成の準備をする。 授業：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究について学んだことをノートにまとめる。	
10	中野 達也	【第 10 回】 予習：指導案作成の準備をする。 授業：学生による模擬授業に向けた指導案作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。	

11	中野 達也	【第 11 回】 予習：中学 1 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業①（中学 1 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業①（中学 1 年生対象）から学んだことをノートにまとめる。							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習：中学 2 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業②（中学 2 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業②（中学 2 年生対象）について学んだことをノートにまとめる。							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習：中学 3 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業③（中学 3 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業③（中学 3 年生対象）から学んだことについてノートにまとめる。							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習：チーム・ティーチングによる模擬授業の準備をする。 授業：学生による模擬授業④（チーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：学生による模擬授業④（チーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習：後期に学んだことをノートで振り返る。 第 15 回 中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 授業：中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：後期のまとめをする。							
授業開始前学習		中学校、高等学校の英語教科書を CD を使いながら音読練習等をする。							
授業内課題のフィードバックの方法		各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材		初回の授業で指示する。							
参考書		適宜指示する。							
評価の基準と方法		ディスカッション・模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	◎
関連科目									
その他		各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

介護等の体験

科目分類	110-411-13		授業コード	O80640	
科目名称	介護等の体験		単位数	2.0 単位	
英文名称	Care Work Experience		授業区分	講義	
科目責任者	小柳 菜穂		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	小柳 菜穂		開講時期	3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	中学校教諭の免許状取得希望者は「介護等の体験」を受講する必要があります。本授業では、「介護等の体験」の意義を理解するとともに、必要な知識と行動規範を身につけることを目的とします。 具体的には、なぜ本体験が必要なのか（意義）、社会福祉施設や特別支援学校はどのような場所なのか（知識）、体験ではどのような振る舞いが必要なのか（行動規範）などを取り上げます。また、本授業や体験を通して、介護等体験の目的の1つである、個人や集団間に存在する様々な違い（多様性）について理解し、考えを深めていただきたいと思います。				
到達目標	・中学校教諭の免許状取得に必要な“介護等体験”の位置づけを理解し、説明できるようになる。 ・ダイバーシティとインクルージョンの定義を理解し、説明できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う施設の種類の施設利用者の特徴を理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う上での行動規範について理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」に必要な書類等の種類と提出期限を把握し、準備する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小柳 菜穂	【第 1 回】 予習：介護等体験特例法について調べる 授業：介護等の体験の位置づけと意義、心得 復習：介護等の体験の位置づけと意義、心得について整理する			
2	小柳 菜穂	【第 2 回】 予習：ダイバーシティとインクルージョンについて調べる 授業：ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について考える（ディスカッション） 復習：ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について整理する			
3	小柳 菜穂	【第 3 回】 予習：日本の社会保障制度について調べる 授業：社会保障について考える（ディスカッション） 復習：社会保障の良い点と課題について整理する			
4	小柳 菜穂	【第 4 回】 予習：社会福祉施設の種類の調べる 授業：社会福祉施設について（1）～高齢期のエイジング～ 復習：高齢社会の現状と課題について整理する			
5	小柳 菜穂	【第 5 回】 予習：社会福祉施設利用者のケアについて調べる 授業：社会福祉施設について（2）～施設利用者のケア～ 復習：社会福祉施設利用者のケアのポイントについて整理する			
6	小柳 菜穂	【第 6 回】 予習：障害の定義や種類について調べる 授業：障害について考える（ディスカッション） 復習：障害にまつわる知識について整理する			
7	小柳 菜穂	【第 7 回】 予習：知的障害について調べる 授業：特別支援学校について（1）～知的障害教育～ 復習：知的障害教育の要点について整理する			
8	小柳 菜穂	【第 8 回】 予習：聴覚障害について調べる 授業：特別支援学校について（2）～聴覚障害教育～ 復習：聴覚障害教育の要点について整理する			
9	小柳 菜穂	【第 9 回】 予習：視覚障害について調べる 授業：特別支援学校について（3）～視覚障害教育～ 復習：視覚障害教育の要点について整理する			

10	小柳 菜穂	【第 10 回】 予習： 肢体不自由・病弱について調べる 授業： 特別支援学校について（４）～肢体不自由・病弱教育～ 復習： 肢体不自由・病弱教育の要点について整理する						
11	小柳 菜穂	【第 11 回】 予習： 発達障害について調べる 授業： 発達障害について考える～ASD・ADHD・LD～ 復習： 発達障害支援の要点について整理する						
12	小柳 菜穂	【第 12 回】 予習： 社会福祉施設について調べ、プレゼン資料を作成する 授業： 調べ学習（１）～社会福祉施設～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習： 社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する						
13	小柳 菜穂	【第 13 回】 予習： 特別支援学校について調べ、プレゼン資料を作成する 授業： 調べ学習（２）～特別支援学校～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習： 社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する						
14	小柳 菜穂	【第 14 回】 予習： その他関連学級について調べ、プレゼン資料を作成する 授業： 調べ学習（３）～その他関連学級～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習： 特別支援学校での体験に向けて、心構えについて整理する						
15	小柳 菜穂	【第 15 回】 予習： 体験先へ提出する書類を確認する、実際の体験施設について基本情報を調べる 授業： 実際の体験に向けて～提出書類と体験日程の確認、体験にあたっての注意事項～ 復習： 今後の流れ、手続き、及びスケジュールを確認し、実行する						
授業開始前学習		オリエンテーションでの内容を踏まえ、本授業で何を学びたいか自分なりに整理してください。また、「介護等体験特例法」について調べ、「介護等の体験」の成り立ちや対象について知りましょう。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で課すショートレポート等は、次回以降の授業内で講評します。						
テキスト・教材		授業資料はパワーポイントで作成し、適宜配布します。						
参考書		全国特別支援学校長会他（編著）『介護等体験ガイドブック 新フィリア』（ジヤース教育新社） 橋本創一他（編著）『教職課程コアカリキュラム対応版 特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』（福村出版）						
評価の基準と方法		プレゼンテーション（30％）、期末レポート（30％）、平常点：授業参加姿勢・コメントペーパー（40％）を総合的に判断し、評価します。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケー ション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことので きる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケー ション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○				○	◎
関連科目								
その他	授業の進め方や内容については、受講学生の興味関心等に応じて適宜変更する可能性があります。その場合は、授業内に別途指示を出します。また本授業では、プレゼンテーションやディスカッション等を予定しています。履修者はそのつもりで参加してください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目分類	110-411-12	授業コード	O80660
科目名称	☆視聴覚教育メディア論	単位数	2.0 単位
英文名称	Audiovisual Media Education	授業区分	講義
科目責任者	篠 政行	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	篠 政行	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	4-204
授業概要	この授業は、視聴覚教育の歴史や教育方法について考え、その意義や教材およびメディアの関係性や重要性を知り、日本における視聴覚教育の始まりや定義、視聴覚教材の長所短所を検討します。教育現場での活用方法のみならず、博物館の学芸員として必要な事柄も学んでいきます。授業は、下記に記したテキストを中心に据え、受講生が模擬授業形式を通して問題解決型学習を進めていきます。この授業では、発表及びグループ・ディスカッションを行います。		
到達目標	教育の場で活用する視聴覚機器（テレビ、DVD、スライド、映画等）、情報機器（PC、Web等）などの教育メディアについて、その機能や種類、利用方法を身につけます。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	篠 政行	【第 1 回】 予習：テキストに目をととして概要を見ておく。 授業：オリエンテーション（この授業の目的と授業に対する姿勢、授業の進め方）、「1. 視聴覚教育の意味」（テキスト p 1-4） 復習：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚教育に関連した事項を調べて追加記入する。	
2	篠 政行	【第 2 回】 予習：テキスト（p 4-20）に目をととして、関連した人物や事柄に関して考えておく。 授業：「2. 視聴覚教育の源流」～「5. 視聴覚教育の定義」（テキスト p 4-20）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、関連した人物や事柄に関して調べて追加記入する。	
3	篠 政行	【第 3 回】 予習：テキスト（p 20-33）に目をととして、歴史的流れに関して考えておく。 授業：「6. 視聴覚教育の動向」～「1. 教育メディアの種類と選択」（テキスト p 20-33）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、歴史的流れに関して調べて追加記入する。	
4	篠 政行	【第 4 回】 予習：テキスト（p 33-50）に目をととして、視聴覚機器に関して考えておく。 授業：「2. 非投映系視聴覚メディア」～「6. 放送メディア」（テキスト p 33-50）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器に関して調べて追加記入する。	
5	篠 政行	【第 5 回】 予習：テキスト（p 50-64）に目をととして、視聴覚機器の変遷に関して考えておく。 授業：「7. コンピュータと通信メディア」～「1. メディア概説」（テキスト p 50-64）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器の変遷に関して調べて追加記入する。	
6	篠 政行	【第 6 回】 予習：テキスト（p 65-79）に目をととして、各自のこれまでのメディアを使つての教育内容に関して考えておく。 授業：「2. メディアについての教育」（テキスト p 65-79）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、各自のこれまでのメディアを使つての教育内容に関して調べて追加記入する。	
7	篠 政行	【第 7 回】 予習：これまでの内容をノートにまとめておく。 授業：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-1（個人作業） 復習：本日の内容を踏まえ、ノート提出の準備をする。	
8	篠 政行	【第 8 回】 予習：テキスト（p 79-96）に目をととして、メディア教育と博物館展示に関して考えておく。 授業：「3. メディア教育の内容と今後」～「1. 博物館と展示・教育事業」（テキスト p 79-96）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、メディア教育と博物館展示に関して追加記入する。	
9	篠 政行	【第 9 回】 予習：テキスト（p 96-111）に目をととして、展示方法の違いに関して考えておく。 授業：「2. 博物館の資料」～「4. 視聴覚メディアの展望」（テキスト p 96-111）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、展示方法の違いに関して調べて追加記入する。	

10	篠 政行	【第 10 回】 予習：テキスト（p 112-125）に目をとおして、映像情報の認知方法に関して考えておく。 授業：「1. 映像・イメージ」～「2. 映像情報の認知」（テキストp 112-125）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、映像情報の認知方法に関して調べて追加記入する。							
11	篠 政行	【第 11 回】 予習：テキスト（p 125-140）に目をとおして、映像メディアによる教育的効果に関して考えておく。 授業：「3. 教育における映像の効果-実証的諸研究を通して」～「4. 映像・イメージと教育」（テキストp 125-140）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、映像メディアによる教育的効果に関して調べて追加記入する。							
12	篠 政行	【第 12 回】 予習：テキスト（p 141-148）に目をとおして、コンピュータの変遷に関して考えておく。 授業：「1. コンピュータの発展とデジタル処理」（テキストp 141-148）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、コンピュータの変遷に関して調べて追加記入する。							
13	篠 政行	【第 13 回】 予習：テキスト（p 148-161）に目をとおして、教育の情報化に関して考えておく。 授業：「2. マルチメディア対応のコンピュータ」～「4. 生涯学習と情報通信ネットワーク」（テキストp 148-161）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習：本日の内容をノートにまとめ、教育の情報化に関して追加記入する。							
14	篠 政行	【第 14 回】 予習：これまでの内容をノートにまとめたものを確認する。 授業：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-2（グループ・ワーク） 復習：これまでの内容をノートにまとめ、必要事項を調べさらに追加記入し、次回の提出に備える。							
15	篠 政行	【第 15 回】 予習：本日の提出に備え、これまでの内容のまとめを再検討する。 授業：ふりかえりとまとめ（グループ・ワーク及びグループ・ディスカッション） 復習：これまで学んできた事項で、気になったことに関して再度調べ、より理解を深める。							
授業開始前学習		教職を取る学生が考えるべき問題などを新聞やインターネットから調べておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表（プレゼン）は、その時点で個別の講評を行う。またレポート課題は、個々の内容を充実させる目的で、学生の相互評価と全体の講評を行います。							
テキスト・教材		・「改訂 視聴覚メディアと教育」（佐賀啓男著、樹村房）。 ・プリントと関連資料は、適宜配付（（Google-classroom 上にアップ）します。							
参考書									
評価の基準と方法		発表（30％）、定期試験（30％）、質疑応答等への積極性（10％）、授業態度（10％）ノート提出（10％）、毎回のリアクションペーパーへのコメント（10％）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目									
その他		遅刻、欠席を極力避けること。なお、遅刻、欠席した場合には原則として事前に連絡を行うこと。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	110-411-11	授業コード	O80060
科目名称	☆教育原理	単位数	2.0 単位
英文名称	Principles of Education	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	1・2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	教育という文化的事象は、教育を規定する時代や社会、文化の要請に応えなければならない。しかし、教育はそれらに即応すべきものではなく、それらを批判し、改善する、教育固有の理論を備えなくてはならない。この教育の理論の解明と構築が、今日の教育状況を打開し、これからの教育にとって不可欠になってくる。本授業では、このような問題意識に基づき、教育の基本的概念、理念、歴史について考察し、理解を深める。		
到達目標	本授業では、教育の基本的概念、理念、歴史、そして思想について、加えて、これまでの教育や学校の営みについて、理解、習得する。これらの学びにおいて、今日の教育課題や教育現場での学校病理現象等を客観的に捉え、読み解けるような「教育を見る目」を養うこともめざす。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田中 正浩	【第 1 回】 予習 : シラバス（本教科授業テーマ・内容、到達目標等）及びテキスト 1 頁から 8 頁まで読んでおく 授業 : 教育の基本的概念 復習 : 授業のポイントである教育の基本的概念について整理する	
2	田中 正浩	【第 2 回】 予習 : テキスト 1 頁から 8 頁まで読んでおく 授業 : 教育の意義と目的 復習 : 授業のポイントである教育の意義について整理する	
3	田中 正浩	【第 3 回】 予習 : テキスト 23 頁から 30 頁まで読んでおく 授業 : 西欧の子ども観の形成と諸相 復習 : 授業のポイントである西欧の子ども観について整理する	
4	田中 正浩	【第 4 回】 予習 : テキスト 31 頁から 38 頁まで読んでおく 授業 : 日本の子ども観の形成と諸相 復習 : 授業のポイントである日本の子ども観について整理する	
5	田中 正浩	【第 5 回】 予習 : テキスト 23 頁から 30 頁まで読んでおく 授業 : 西欧における教育の歴史的展開 復習 : 授業のポイントである西欧における教育の歴史的展開について整理する	
6	田中 正浩	【第 6 回】 予習 : テキスト 31 頁から 38 頁まで読んでおく 授業 : 日本における教育の歴史的展開 復習 : 授業のポイントである日本における教育の歴史的展開について整理する	
7	田中 正浩	【第 7 回】 予習 : テキスト 9 頁から 12 頁まで読んでおく 授業 : 西欧における教育思想－コメニウス、ロック、ルソー（プレゼンテーション） 復習 : 授業のポイントであるコメニウス、ロック、ルソーについて整理する	
8	田中 正浩	【第 8 回】 予習 : テキスト 13 頁から 17 頁まで読んでおく 授業 : 西欧における教育思想－ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト（プレゼンテーション） 復習 : 授業のポイントであるペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて整理する	
9	田中 正浩	【第 9 回】 予習 : テキスト 18 頁から 22 頁まで読んでおく 授業 : 西欧における教育思想－エレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイ（プレゼンテーション） 復習 : 授業のポイントであるエレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイについて整理する	
10	田中 正浩	【第 10 回】 予習 : テキスト 53 頁から 70 頁まで読んでおく 授業 : 教育内容と教育課程 復習 : 授業のポイントである教育課程の意味と類型について整理する	

11	田中 正浩	【第 11 回】 予習 : テキスト 39 頁から 52 頁まで読んでおく 授業 : 教育と社会 復習 : 授業のポイントである教育の社会的機能と社会の教育的機能について整理する						
12	田中 正浩	【第 12 回】 予習 : テキスト 85 頁から 106 頁まで読んでおく 授業 : 近代教育制度の成立と展開 復習 : 授業のポイントである近代学校制度、学校体系の類型について整理する						
13	田中 正浩	【第 13 回】 予習 : テキスト 123 頁から 138 頁まで読んでおく 授業 : 教師の力量とアイデンティティ (グループ・ディスカッション) 復習 : 授業のポイントである教師の力量形成、教師教育の課題について整理する						
14	田中 正浩	【第 14 回】 予習 : テキスト 139 頁から 145 頁まで読んでおく 授業 : 現代の教育問題－不登校・いじめ・学級崩壊－ 復習 : 授業のポイントである不登校・いじめ・学級崩壊について整理する						
15	田中 正浩	【第 15 回】 予習 : テキスト 145 頁から 150 頁まで読んでおく 授業 : 現代の教育問題－教師と親－ (グループ・ディスカッション) 復習 : 授業のポイントである指導力不足の教師、学級崩壊、モンスターペアレントについて整理する						
授業開始前学習		今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等について、書物などを通して情報を得ておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。						
テキスト・教材		平野智美監修、中山幸夫・田中正浩編著『新・教育学のグランドデザイン』(八千代出版) このほか適宜、資料プリントを配付する。						
参考書		授業にて、適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		小テスト (20%)、試験 (60%)、平常点 [授業への取組・課題提出] (20%) により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育制度論」「教育課程論」「生徒指導論」等において本教科の知見は学びを深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、テキストや資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業には、問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	110-411-11 (J)	授業コード	O80040
科目名称	教職入門	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Teaching Careers	授業区分	講義
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	多角的アプローチにより、教師および教育について学ぶ。 調べ学習に基づき、グループ・ワークやグループ・ディスカッション、さらにはディベートなどを通して学習内容を深める。		
到達目標	教育全般および教師の仕事についての理解をもとに、自分なりの考えを説明することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	中野 達也	【第 1 回】 予習 : 今まで受けてきた中学・高校教育について考えてくる。 授業 : オリエンテーション (教職課程履修の意味・教職の意義) 復習 : オリエンテーション (教職課程履修の意味・教職の意義) から学んだことをレポートにまとめる。	
2	中野 達也	【第 2 回】 予習 : 自分の中学校について調べてくる。 授業 : 自分の受けてきた教育から学ぶ (発表) ① (私の中学校・中学校の先生) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の受けてきた教育から学んだことをレポートにまとめる。	
3	中野 達也	【第 3 回】 予習 : 自分の高等学校について調べてくる。 授業 : 自分の受けてきた教育から学ぶ (発表) ② (私の高等学校・高等学校の先生) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の受けてきた教育から学んだことをレポートにまとめる。	
4	中野 達也	【第 4 回】 予習 : 教員の役割・進路選択について考えてくる。 授業 : 教師の 1 日 (教員の役割) (グループワーク) 復習 : 教師の 1 日 (教員の役割) から学んだことをレポートにまとめる。	
5	中野 達也	【第 5 回】 予習 : 自分が習った中学校の先生の仕事について調べてくる。 授業 : 教師という仕事 (教員の役割・教職の意義) (グループワーク) 復習 : 教師という仕事 (教員の役割・教職の意義) から学んだことをレポートにまとめる。	
6	中野 達也	【第 6 回】 予習 : 自分が習った高等学校の先生の仕事について調べてくる。 授業 : 教師に求められるもの (教師の服務・身分保障) (グループワーク) 復習 : 教師に求められるもの (教師の服務・身分保障) から学んだことをレポートにまとめる。	
7	中野 達也	【第 7 回】 予習 : 先生の 1 年間の仕事について考えてくる。 授業 : 学級経営・学年経営 (教師の服務・教師の役割) (グループワーク) 復習 : 学級経営・学年経営 (教師の服務・教師の役割) から学んだことをレポートにまとめる。	
8	中野 達也	【第 8 回】 予習 : 先生の 1 日の仕事について考えてくる。 授業 : 教師の連携 (教師の服務・教師の役割) (グループワーク) 復習 : 教師の連携 (教師の服務・教師の役割) について学んだことをレポートにまとめる。	
9	中野 達也	【第 9 回】 予習 : 教師の仕事について調べ、まとめる。 授業 : 校務分掌 (教師の役割) 、(グループワーク) (ディスカッション) 復習 : 校務分掌 (教師の役割) から学んだことをレポートにまとめる。	
10	中野 達也	【第 10 回】 予習 : 学習指導要領について調べ、まとめる。 授業 : 学習指導要領の変遷・内容 (教科指導) (グループワーク) (ディスカッション) 復習 : 学習指導要領の変遷・内容 (教科指導) から学んだことをレポートにまとめる。	

11	中野 達也	【第 11 回】 予習 : 教育で話題になっていることについて調べ、まとめる。 授業 : 中学・高校の先生方から学校の現状について話を聞く（進路選択に資する機会の提供）（プレゼンテーション） 復習 : 中学・高校の先生方から学校の現状について話を聞く（進路選択に資する機会の提供）から学んだことをレポートにまとめる。						
12	中野 達也	【第 12 回】 予習 : 教育で話題になっていること（教科指導）について調べ、まとめる。 授業 : 教科指導法（教師の役割） 復習 : 教科指導法（教師の役割）から学んだことをレポートにまとめる。						
13	中野 達也	【第 13 回】 予習 : 教育で話題になっていること（教員研修）について調べ、まとめる。 授業 : 教員研修の必要性（研修）（ディベート） 復習 : 教員研修の必要性（研修）から学んだことをレポートにまとめる。						
14	中野 達也	【第 14 回】 予習 : 教育で話題になっていること（入試改革）について調べ、まとめる。 授業 : 教育問題についての討論（ディベート） 復習 : 教育問題についての討論から学んだことをレポートにまとめる。						
15	中野 達也	【第 15 回】 予習 : これまでの授業をふりかえる。 授業 : 学校教育全体に関する事項の総括 復習 : 今後はどう生かすかをレポートにまとめる。						
授業開始前学習		自分が受けてきた教育を振り返る。						
授業内課題のフィードバックの方法		各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。						
テキスト・教材		初回の授業で指示する。						
参考書		適宜指示する。						
評価の基準と方法		授業への参加度（発表を含む） 3 0 %、レポート 3 0 %、定期試験 4 0 %を総合して評価する。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケー ション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことので きる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	◎		◎			
関連科目								
その他		各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席は認められないので注意のこと。						
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした 教育内容		中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。						

科目分類	110-411-12	授業コード	O80200
科目名称	教育制度論	単位数	2.0 単位
英文名称	Education Systems Studies	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	我国の教育制度及び教育行政に関連する歴史的・社会的出来事を概観しながら、現代の公教育制度の意義・原理・構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、今日的課題を読み解いていく。さらに、具体的な取り組み事例を基に、学校と地域との連携、学校安全への対応について理解を深める。		
到達目標	本授業では、今日の教育制度及び教育行政について説明ができるように、これらに関する基本的事項を理解、習得することをめざす。加えて、学校と地域との連携、安全教育に対する理解を深める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田中 正浩	【第 1 回】 予習 : シラバス（本教科の授業テーマ・内容、到達目標等）を読んでおく 授業 : 公教育の原理と理念 復習 : 公教育の原理について整理する	
2	田中 正浩	【第 2 回】 予習 : 我国にどのような教育関係法規があるか調べる 授業 : 公教育制度に係わる教育関係法規 復習 : 教育関係法規について整理する	
3	田中 正浩	【第 3 回】 予習 : 教科書検定制度について調べる 授業 : 教育内容に関する制度－学習指導要領－ 復習 : 学習指導要領の意味と意義について整理する	
4	田中 正浩	【第 4 回】 予習 : 日本国憲法のなかで教育に関する条文を探す 授業 : 日本国憲法と教育制度 復習 : 日本国憲法と「教育を受ける権利」の関係を整理する	
5	田中 正浩	【第 5 回】 予習 : 教育基本法を読んでみる 授業 : 教育の目的と目標－教育基本法－ 復習 : 教育基本法と「教育を受ける権利」の関係を整理する	
6	田中 正浩	【第 6 回】 予習 : 日本国憲法・教育基本法のなかで義務教育に関する条文を探す 授業 : 義務教育制度－誰の何に対する義務か－ 復習 : 義務教育の意味と意義を整理する	
7	田中 正浩	【第 7 回】 予習 : 義務教育の三原則について調べる 授業 : 義務教育の三原則 復習 : 義務教育の三原則について整理する	
8	田中 正浩	【第 8 回】 予習 : 教育機会の保障とはどうことか調べる 授業 : 教育の機会均等 復習 : 教育の機会均等の意味と課題について整理する	
9	田中 正浩	【第 9 回】 予習 : 戦後教育行政の基本原則について調べる 授業 : 教育行政の変遷と理念 復習 : 教育行政の制度について整理する	
10	田中 正浩	【第 10 回】 予習 : 法律に定める学校について調べる 授業 : 学校教育制度－原理・構造・課題－ 復習 : 学校教育制度の原理と構造について整理する	
11	田中 正浩	【第 11 回】 予習 : 社会教育の意味について調べる 授業 : 社会教育制度－原理・構造・課題－ 復習 : 社会教育制度の原理と構造について整理する	

12	田中 正浩	【第 12 回】 予習 : 地域の学校教育活動について調べる 授業 : 地域における学校教育活動の意義及び方法 (グループ・ディスカッション) 復習 : 地域における学校教育活動について整理する						
13	田中 正浩	【第 13 回】 予習 : 地域に開かれた学校についての事例を探す 授業 : 地域に開かれた学校づくり(グループ・ディスカッション) 復習 : 地域に開かれた学校の意味と意義について整理する						
14	田中 正浩	【第 14 回】 予習 : 学校における危機管理や事故対応の具体例を調べる 授業 : 学校安全 (危機管理・事故対応) の意義 復習 : 危機管理や事故対応について整理する						
15	田中 正浩	【第 15 回】 予習 : 安全管理と安全教育の実践例について調べる 授業 : 安全管理と安全教育 復習 : 安全管理と安全教育の意味と意義について整理する						
授業開始前学習		今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等で何かしら関心のあることについての情報を書物などを通して得ておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。						
テキスト・教材		田中正浩編著『学びを深める 教育制度論』(大学図書出版) このほか適宜、資料プリントを配付する。						
参考書		授業にて、適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		小テスト (20%)、試験 (60%)、平常点 [授業への取組・課題提出] (20%) により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		○	◎			
関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業には、問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	110-411-12	授業コード	O80080
科目名称	発達心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental Psychology	授業区分	講義
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	本講義では、「生涯発達心理学」という視点から人間の発達を広く連続的に捉えつつ、特にその基盤となる乳児期から青年期にかけての人間の発達に関する基本的な知見を学ぶ。また幼児、児童および生徒の発達に関しては、集団への適応と学習への適応と学習の課程及び現代の教育現場が抱える問題について心理学的な観点から考察を行う。		
到達目標	発達心理学のロジックを理解し、それをもとにして乳幼児期から青年期にかけての人間の身体的、精神的そして社会的な発達および学習の過程に関する知識を正確に習得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	丸山 慎	【第 1 回】 予習 : 特に課さない 授業 : 教科への導入「人間の発達とは何か : 発達心理学という研究領域について」 復習 : 特に課さないが履修のモチベーションを各自確認すること	
2	丸山 慎	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.1-7) の講読と疑問点の抽出 授業 : 発達初期の能力を測る方法 : 選考注視法、馴化・脱馴化法を中心に 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
3	丸山 慎	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.7-14, p.104) の講読と疑問点の抽出 授業 : 発達心理学の主要な理論①「認知発達」:ピアジェ、ヴィゴツキー等 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
4	丸山 慎	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.14-19, p.116-122, p.130-136) の講読と疑問点の抽出 授業 : 発達心理学の主要な理論②「社会性の発達」:エリクソン、コールバーグ、アイゼンバーグ等 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
5	丸山 慎	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.23-33) の講読と疑問点の抽出 授業 : 人間の知覚・運動・認知の発達 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
6	丸山 慎	【第 6 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.33-43) の講読と疑問点の抽出 授業 : 愛着の形成及び三項関係の発達 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
7	丸山 慎	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.46-54) の講読と疑問点の抽出 授業 : 表象とことばの獲得 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
8	丸山 慎	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.54-63) の講読と疑問点の抽出 授業 : 他者のこころを推量する : 「こころの理論」とは何か 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
9	丸山 慎	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.64-65, p.68-84) の講読と疑問点の抽出 授業 : 自己意識の発達と自己抑制 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
10	丸山 慎	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.87-99) の講読と疑問点の抽出 授業 : 思考の深まりと社会性の発達 (集団づくり・友人とのかかわり) 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	
11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (p.99-105, p.108-116) の講読と疑問点の抽出 授業 : 学校における児童・生徒の学習① : 学習への動機づけと学力の問題 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと	

12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 : 教科書の該当箇所（p.116-122、p.125-135、p.146-162）の講読と疑問点の抽出 授業 : 学校における児童・生徒の学習② : 教師と生徒の関係における変化及び評価 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと							
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 : 参考資料の確認と疑問点の抽出 授業 : 障害のある児童・生徒の発達と支援① : 障害の理解と教育的な働きかけについて 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと							
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習 : 参考資料の確認と疑問点の抽出 授業 : 障害のある児童・生徒の発達と支援② : 支援組織についての理解(家族・地域・専門機関) 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと							
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 : これまでに参照した教科書の該当箇所および参考資料を読み返しておくこと 授業 : 講義の総括 : 児童・生徒の身体的、精神的、社会的発達を見守り、導き、支えるために 復習 : 講義のレジュメを読み直しておくこと							
授業開始前学習		発達心理学や保育に関する入門書に目を通しておくことを勧めたい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題を実施した次の授業の冒頭に課題に対して概評を与え、前回の授業内容を振り返る。							
テキスト・教材		藤村宣之（編著）『発達心理学：周りの世界と関わりあいながら人はいかに育つか』ミネルヴァ書房，2009 年刊							
参考書		・無藤 隆・中坪史典・西山 修（編著）『発達心理学』ミネルヴァ書房，2010 年刊 ・岡本祐子・深瀬裕子（編著）『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房，2013 年刊 ・三浦香苗・村瀬嘉代子・西林克彦・近藤邦夫（編著）『発達と学習の支援』新曜社，2000 年刊							
評価の基準と方法		平常点 30%（授業参加点 20%・小レポート 10%）と期末試験 70%を総合して最終的な評価とする。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケー ション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことので きる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケー ション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△			◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容									

特別支援教育概論

科目分類	110-411-12	授業コード	O80370
科目名称	特別支援教育概論	単位数	1.0 単位
英文名称	Introduction to Special Education	授業区分	講義
科目責任者	金森 克浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金森 克浩	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育について、理念、制度及び障害種別の現状を講述する。その上で、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築について概説する。テーマについてディスカッションを行なう。		
到達目標	1.特別支援教育に関する動向のポイントを説明できる。 2.特別支援教育に関する理念を理解し実際の支援について自分の考えとともに説明できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	8 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	金森 克浩	【第 1 回】 予習：特別支援教育とはどういうものか調べる 授業：特別支援教育の理念と制度 復習：特別支援教育の理念について整理する	
2	金森 克浩	【第 2 回】 予習：通常の学級の中で児童生徒がどのような困り感があるかを考える 授業：インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒 復習：インクルーシブ教育システムについて整理する	
3	金森 克浩	【第 3 回】 予習：通常の学級以外でどのような教育課程があるかを調べる 授業：特別支援教育の教育課程 復習：特別支援教育における教育課程の内容を整理する	
4	金森 克浩	【第 4 回】 予習：個別の指導計画とは何かを調べる 授業：個別の教育支援計画と個別の指導計画 復習：学習指導要領において個別の教育支援計画と個別の指導計画がどのように扱われているか整理する	
5	金森 克浩	【第 5 回】 予習：どのような特別支援学校があるかを調べる 授業：障害児の理解と教育（１）視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱 復習：特別支援学校の教育内容を整理する	
6	金森 克浩	【第 6 回】 予習：学習障害とは何かを調べる 授業：障害児の理解と教育（２）学習障害 復習：学習障害のある子どもの指導について整理する	
7	金森 克浩	【第 7 回】 予習：ADHD や ASD とは何かを調べる 授業：障害児の理解と教育（３）注意欠陥・多動性障害、言語障害、自閉症・情緒障害 復習：発達障害のある子どもの指導について整理する	
8	金森 克浩	【第 8 回】 予習：障害のある子どもの困難さとは何かを考える 授業：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築 復習：共生社会の形成のためにどのような事が大切かを整理する	
授業開始前学習			
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業終了後に提出するコメントシートには次週の講義に回答する。	
テキスト・教材		特になし。授業時に関係資料を配付する。	
参考書		廣瀬由美子、石塚謙二 編著『特別支援教育』（ミネルヴァ書房） 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』（海文堂出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則編』（教育出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』（教育出版）	

評価の基準と方法	授業内課題(コメントシート)35 点、最終講義テスト 65 点							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 30 時間（4 時間×7.5 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	110-411-12	授業コード	O80210
科目名称	教育課程論	単位数	2.0 単位
英文名称	Curriculum Studies	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	教育課程の意義や編成の方法を「カリキュラム」という語源から、そして学習指導要領を基準に編成される教育課程という視点から理解する。さらに、教育課程編成の基本原理と方法、実際に編成されてきた教育課程の類型等について、教育課程の編成及び指導計画（授業）案の作成手順等を学びながら理解を深める。これらを学ぶ中で、カリキュラム・マネジメントの今日的意義とその重要性について理解する。		
到達目標	本授業では、「優れた教師の条件の一つとして教育課程（カリキュラム）編成能力がある」と言われることの意味を理解できるよう、教育課程の意義及び編成の方法を理解し、編成能力を身に付ける。併せて、カリキュラム・マネジメントの意義についても理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田中 正浩	【第 1 回】 予習 : シラバス（本教科の授業テーマ・内容及び到達目標等）読んでおく 授業 : 教育課程の意味と意義 復習 : 教育課程の意義について整理する	
2	田中 正浩	【第 2 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程編成の基準としての学習指導要領 復習 : 学習指導要領の意義について整理する	
3	田中 正浩	【第 3 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 学習指導要領の変遷と性格（グループ・ワーク） 復習 : 学習指導要領の変遷について整理する	
4	田中 正浩	【第 4 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程編成の基本原則 復習 : 教育課程編成の基本原則について整理する	
5	田中 正浩	【第 5 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程の類型－教科カリキュラム、相関カリキュラム、融合カリキュラム－ 復習 : 教育課程の類型について整理する	
6	田中 正浩	【第 6 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程の類型－コア・カリキュラム、経験カリキュラム－ 復習 : 教育課程の類型について整理する	
7	田中 正浩	【第 7 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程編成の方法と教育内容 復習 : 教育課程編成の方法と教育内容との関連について整理する	
8	田中 正浩	【第 8 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程と教材 復習 : 教育課程と教材との関連について整理する	
9	田中 正浩	【第 9 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程編成の実例－教育課程編成の手順－ 復習 : 教育課程編成の手順について整理する	
10	田中 正浩	【第 10 回】 予習 : 配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業 : 教育課程編成の実例－教育課程を読み解く－ 復習 : 教育課程から読みとれることは何か整理する	

11	田中 正浩	【第 11 回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：指導計画作成の実際－指導計画（授業）案作成の手順－ 復習：指導計画案作成の手順について整理する						
12	田中 正浩	【第 12 回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：指導計画作成の実際－指導計画（授業）案を読み解く－ 復習：指導計画案から読みとれることは何か整理する						
13	田中 正浩	【第 13 回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：カリキュラム・マネジメントの意義 復習：カリキュラム・マネジメントの意義について整理する						
14	田中 正浩	【第 14 回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程評価の基本原理 復習：教育課程評価の基本原理について整理する						
15	田中 正浩	【第 15 回】 予習：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業：教育課程開発の今日的意義と課題(グループ・ディスカッション) 復習：教育課程開発の今日的意義と課題について整理する						
授業開始前学習		各回の授業においては、事前に配付した資料プリントを読み、専門用語等を調べた上で臨んでほしい。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。						
テキスト・教材		文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』（東山書房） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編』（東洋館出版社） このほか適宜、資料プリントを配付する。						
参考書		授業にて、適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		小テスト（20％）、試験（60％）、平常点〔授業への取組・課題提出〕（20％）により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		○	◎			
関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

☆道徳教育の指導法／道徳教育の研究

科目分類	110-411-12	授業コード	O80460
科目名称	☆道徳教育の指導法／道徳教育の研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching Methods (Moral Education)	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	学生が、単に知識の提示に終わるのではなく、自分自身が道徳指導について持つ課題に引きつけて多様な道徳指導上の視点から考えて実践できる可能性を見出す姿勢を身につける。道徳教育の意義や歴史、学習指導要領における位置づけ、実践の基盤となる諸理論について概説する。指導案の作成や模擬授業の実践を行い、道徳教育実践についての教材を開発することを通じて、よりよい道徳指導の可能性について考えていく。		
到達目標	本授業は、教免法「教職に関する科目」内の「道徳指導法」に該当する科目である。学生が道徳指導に関わる基本的な知識を身につけること、またそれらをヒントとしながら道徳指導の可能性について深く考えることができること、さらに道徳指導の実践についてのアイデアを多様に展開できること、指導案の作成や模擬授業を通して実践的な指導力を身につけることが到達目標である。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田中 正浩	【第 1 回】 予習：「道徳教育」「道徳指導」の概要について調べる 授業：オリエンテーション：「道徳教育」「道徳指導」とは何か 復習：「道徳教育」「道徳指導」の基本的な知識をまとめる	
2	田中 正浩	【第 2 回】 予習：日本の道徳教育に歴史について調べる 授業：日本の道徳教育の歴史：明治期から現代まで 復習：日本の道徳教育の変遷を整理する	
3	田中 正浩	【第 3 回】 予習：学習指導要領の役割について調べる 授業：学習指導要領の変遷：小学校・中学校・高等学校 復習：学習指導要領の変遷と道徳教育の在り方を確認する	
4	田中 正浩	【第 4 回】 予習：指導案の作成について調べる 授業：中間課題①：読み物資料を使用した指導案作成とその検討（発表） 復習：作成した指導案を見直す	
5	田中 正浩	【第 5 回】 予習：「基本型」や内容項目について調べる 授業：道徳授業の検討（1）：「基本型」と内容項目理解（発表） 復習：「基本型」の特徴を整理し、内容項目についてまとめる	
6	田中 正浩	【第 6 回】 予習：道徳性の発達理論や「モラルジレンマ」授業について調べる 授業：道徳授業の検討（2）：道徳性の発達理論と「モラルジレンマ」授業（発表） 復習：道徳性発達理論の展開と「モラルジレンマ」授業の特徴を整理する	
7	田中 正浩	【第 7 回】 予習：道徳授業の教材開発について調べる 授業：中間課題②：道徳授業の教材開発：実践編（発表） 復習：開発した教材を見直す	
8	田中 正浩	【第 8 回】 予習：道徳授業の教材開発について調べる 授業：道徳授業の教材開発の実践：検討編（発表） 復習：他学生の開発した教材と比較し、問題点を検討する	
9	田中 正浩	【第 9 回】 予習：「価値明確化」授業について調べる 授業：道徳授業の検討（3）：「価値明確化」授業（発表） 復習：「価値明確化」授業の特徴を整理する	
10	田中 正浩	【第 10 回】 予習：「モラルスキルトレーニング」授業について調べる 授業：道徳授業の検討（4）：「モラルスキルトレーニング」授業（発表） 復習：「モラルスキルトレーニング」授業の特徴を整理する	

11	田中 正浩	【第 11 回】 予習：海外の道德教育について調べる 授業：現代社会が抱える問題点と海外の道德教育（ディスカッション） 復習：日本と海外の道德教育を比較する						
12	田中 正浩	【第 12 回】 予習：「道德の社会化」について調べる 授業：「道德の社会化」と道德教育の在り方 復習：「道德の社会化」と道德教育の在り方について整理する						
13	田中 正浩	【第 13 回】 予習：模擬授業の準備をする 授業：模擬授業の実践と検討（1）：開発した教材及び指導案の実践・検討（発表） 復習：実践内容を振り返る						
14	田中 正浩	【第 14 回】 予習：模擬授業の準備をする 授業：模擬授業の実践と検討（2）：道德指導の実践に関する評価（発表） 復習：道德授業を実践する際の課題についてまとめる						
15	田中 正浩	【第 15 回】 予習：これまでの授業内容を見直す 授業：まとめ：今後の道德指導における問題と展望 復習：この授業で学んだことを整理する						
授業開始前学習		学習指導要領における道德教育の目標や道德科の内容を確認しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で課題を 2 回実施し、解説も同授業内または翌授業内で行なう。						
テキスト・教材		文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』（2018） 適宜、資料プリントを配付する。 このほか適宜、資料プリントを配付する。						
参考書		授業にて、適宜、介する。						
評価の基準と方法		以下の 4 項目の評価をもとに最終的な評価を決定する。 ・授業への参加度：20％ ・中間課題①：10％ ・中間課題②：20％ ・試験：50％						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成			社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他	授業内で質問する時間も設け、自由な質問・討議を促す。 授業は講義形式と発表形式の両方を取り、どちらでも学生の主体的な参加を期待する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

総合的な学習の時間の指導法

科目分類	110-411-12（J）		授業コード	O80380	
科目名称	総合的な学習の時間の指導法		単位数	1.0 単位	
英文名称	Teaching Methods (Integrated Studies)		授業区分	講義	
科目責任者	野中 潤		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	野中 潤		開講時期	2 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	総合的な学習の時間の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら学ぶ。また、社会に開かれた教育課程を実現するための教育のあり方を考え、総合的な学習の時間のための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。				
到達目標	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するための学習がどのように実践されうかを理解することができる。 生徒が学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を身につけ、自己の生き方を考える学習をデザインできる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	8 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	野中 潤	【第 1 回】 予習：「総合的な学習の時間」についての基本事項をインターネットなどを活用して調べる 授業：「総合的な学習の時間」とは何か（質問づくり・グループワーク） 復習：他のグループの質問づくりのファイルを開覧し、講義ノートにまとめる			
2	野中 潤	【第 2 回】 予習：質問づくりに基づく探究課題についてインターネットなどを活用して調べる 授業：「総合的な学習の時間」の実践事例調査（協働的な学び・グループワーク） 復習：実践事例調査の結果を講義ノートにまとめる			
3	野中 潤	【第 3 回】 予習：他のグループが調査した実践事例の詳細を確認する 授業：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の概要把握（ABD・グループワーク） 復習：ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）でわかったことを講義ノートにまとめる			
4	野中 潤	【第 4 回】 予習：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の事例 1？3 の内容を確認する 授業：「総合的な学習の時間」の指導にあたって留意すべきことや ICT を活用した授業プランについて、事例別に考察する（ジグソー法・エキスパート活動） 復習：エキスパート活動で明らかにしたことを講義ノートにまとめる			
5	野中 潤	【第 5 回】 予習：エキスパート活動で担当しているスライドにポイントをまとめる 授業：「総合的な学習の時間」の指導にあたって留意すべきことや ICT を活用した授業プランについて事例別に発表する（ジグソー法・発表） 復習：ジグソー方を通じて学んだことを講義ノートにまとめる			
6	野中 潤	【第 6 回】 予習：質問づくりで掲げた探究課題について、具体的な事例を踏まえて検証する 授業：探究課題についての発表資料を作成する（個人ワーク） 復習：他の受講生が作成中の発表資料を開覧し、付箋でコメントする			
7	野中 潤	【第 7 回】 予習：発表資料の付箋を確認し、他の受講生のコメントに返信する 授業：探究課題についての発表資料を完成させ、発表動画を作成する（個人ワーク） 復習：共有された他の受講生の発表動画を視聴して、Google フォームなどでフィードバックする			
8	野中 潤	【第 8 回】 予習：スプレッドシートで他の受講生のフィードバックの内容を確認する 授業：「総合的な学習の時間」をめぐる対話（ワールドカフェ）とまとめ 復習：探究課題についての学びを講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる ※注、予習復習を含めた授業内容は、原則として電子的なドキュメントに随時入力していく。また、まとめレポートも同様にドキュメントに執筆する。			
授業開始前学習		Google Workspace for Education での課題提出			
授業内課題のフィードバックの方法		Google Classroom によるコメントやルーブリックなどを活用した評価			

テキスト・教材	適宜資料を配信する							
参考書	中学校・高等学校学習指導要領、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）							
評価の基準と方法	毎回の課題提出を積算した平常点 60%、講義ノート 40%							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニ ケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことの できる専門力と判断力の養 成		文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養 成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニ ケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他	授業中に情報端末を使います。パソコン教室を利用できるようにしますが、できるだけインターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 30 時間（4 時間×7.5 週）							
実務経験を活かした 教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。							

☆特別活動の指導法

科目分類	110-411-12 (J)	授業コード	O80480
科目名称	☆特別活動の指導法	単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching Methods (Special Activities)	授業区分	講義
科目責任者	橋本 衆宝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本 衆宝	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	10-616
授業概要	本授業は、特別活動の目的に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を 21 世紀型のリーダーシップ教育の視点に立って学修する。実践的な集団活動による学び合いを通して、指導に資する理論とスキルの修得を図る。毎時のテーマごとに、教育現場における実際問題と事例を取り上げながら、実際の学級(ホームルーム)活動、生徒会活動、学校行事を想定したグループワークと「話し合い活動」、「リフレクション(省察)」を通して、指導方法を学修する。特に、学級担任の視点で学級(ホームルーム)活動の事例研究、実践演習を行い、中学校、高等学校の教育および生徒の現状と課題を理解し、特別活動の教育的意義と特徴を踏まえ、望ましい集団づくりと適切な指導のあり方を深めていく。		
到達目標	中学校、高等学校における特別活動の教育的意義と特徴を理解し、活動内容の目標に即して、実際場面で適切に指導できる資質と能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋本 衆宝	【第 1 回】 予習：学校教育の中でどのようなものが特別活動なのか、自身の中学校・高校時代を振り返り、考えてくる。 授業：オリエンテーション、特別活動の特質と教育的意義 復習：テキスト P8～P19 を読み、授業で学修した特別活動の特質と教育的意義についてのポイントを整理する。	
2	橋本 衆宝	【第 2 回】 予習：テキスト P20～P25 を通読してくる。 授業：特別活動の教育課程上の位置付け・特別活動の変遷 復習：授業で学修した特別活動の教育課程上の位置付け・特別活動の変遷についてのポイントを整理する。	
3	橋本 衆宝	【第 3 回】 予習：テキスト P26～P33 を通読してくる。 授業：特別活動の目標と内容 復習：授業で学修した特別活動の目標と内容についてのポイントを整理する。	
4	橋本 衆宝	【第 4 回】 予習：テキスト P34～P39 を通読してくる。 授業：特別活動における人間関係形成 復習：授業で学修した特別活動における人間関係形成についてのポイントを整理する。	
5	橋本 衆宝	【第 5 回】 予習：テキスト P40～P45 を通読してくる。 授業：特別活動における話し合い活動 復習：授業で学修した特別活動における話し合い活動についてのポイントを整理する。	
6	橋本 衆宝	【第 6 回】 予習：テキスト P46～P59 を通読してくる。 授業：特別活動の指導計画の作成と指導・評価 復習：授業で学修した特別活動の指導計画の作成と指導・評価についてのポイントを整理する。	
7	橋本 衆宝	【第 7 回】 予習：テキスト P60～P65 を通読してくる。 授業：特別活動と組織的取組 復習：授業で学修した特別活動と組織的取組についてのポイントを整理する。	
8	橋本 衆宝	【第 8 回】 予習：テキスト P66～P69 を通読してくる。 授業：特別活動と道徳教育 復習：授業で学修した特別活動と道徳教育についてのポイントを整理する。	
9	橋本 衆宝	【第 9 回】 予習：テキスト P70～P75 を通読してくる。 授業：特別活動とキャリア教育 復習：授業で学修した特別活動とキャリア教育についてのポイントを整理する。	
10	橋本 衆宝	【第 10 回】 予習：テキスト P76～P81 を通読してくる。 授業：特別活動と生徒指導 復習：授業で学修した特別活動と生徒指導についてのポイントを整理する。	

11	橋本 衆宝	【第 11 回】 予習：テキスト P82～P87 を通読してくる。 授業：特別活動と学級経営 復習：授業で学修した特別活動と学級経営についてのポイントを整理する。						
12	橋本 衆宝	【第 12 回】 予習：テキスト P96～P109 を通読してくる。 授業：学級(ホームルーム)活動の実践 復習：授業で学修した学級(ホームルーム)活動の実践についてのポイントを整理する。						
13	橋本 衆宝	【第 13 回】 予習：テキスト P110～P121 を通読してくる。 授業：生徒会活動の実践 復習：授業で学修した生徒会活動の実践についてのポイントを整理する。						
14	橋本 衆宝	【第 14 回】 予習：テキスト P128～P139 を通読してくる。 授業：学校行事の実践？ 復習：授業で学修した学校行事の実践についてのポイントを整理する。						
15	橋本 衆宝	【第 15 回】 予習：テキスト P128～P139 を通読してくる。 授業：学校行事の実践②・特別活動の実践的課題と可能性 復習：授業で学修した学校行事の実践及び特別活動の実践的課題と可能性についてのポイントを整理する。						
授業開始前学習		特別活動は学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から成り立っている。自身の今までの経験を振り返ってほしい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業時に講評及びコメントを付してフィードバックする。授業テーマを深め、学修を省察する教材として、適宜、授業内でも活用する。						
テキスト・教材		『特別活動指導法 改訂 2 版(日本文教出版)』 上記テキストを中心に使用し、適宜、授業のテーマに該当する内容のプリントを配付する。						
参考書		中学校・学習指導要領解説「特別活動編」(文部科学省)、生徒指導提要(文部科学省)、その他授業時に指定する。						
評価の基準と方法		授業内の演習および課題を 40 パーセント、定期試験またはそれに準ずる課題を 60 パーセントとして総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎		○	△
関連科目	教職課程の本科目は、他の教職教養系科目と有機的に関連するが、特に「生徒指導の研究」での知見は、本教科の理解を深めてくれる。							
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、学習指導要領と参考書等を読んで授業に臨むことを心がけてほしい。授業では、受講生自身の体験等をもとに意見発表や討論を行う。また、「ワークシート」や「学級・ホームルーム通信」などを作成したり、皆の前で発表（プレゼンテーション）したりする機会を複数回設ける。常に問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	公・私立中学校・高等学校教員および学校心理士としての心理・教育的知見と実務経験を活かし、特別活動の指導において教員に求められる資質・能力を育成する授業を展開する。							

☆教育方法・技術／教育メディアの研究

科目分類	110-411-12	授業コード	O80500
科目名称	☆教育方法・技術／教育メディアの研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Education Techniques and Technology	授業区分	講義
科目責任者	八木 浩雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八木 浩雄	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	「教育」という観点から、学校教育の意味を理解し、その上で「教育の方法」についての在り方を学んでいく。また、今日の社会は「知識基盤社会」と称されることから、私たちの生活上欠かせない情報メディアと教育現場の在り方等についても注目していく。特に授業内での情報メディア機器の活用を通して、教員としての情報メディアの活用の事例を考える機会に生かしていきたいと思う。		
到達目標	今日の社会がどのようなものであるのかを各自で分析（課題発見）し、その上で適切な学校教育上の方法を理解し模索する姿勢（問題解決）・方法・技術を身に付けて行く。 特に、子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現＝アクティブ・ラーニング）を理解していく。 また、情報メディア機器の特性を理解し、ICT を学校教育上で活用していく方法を自身の担当科目の特性を踏まえて模索していく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	八木 浩雄	【第 1 回】 予習：簡単な自己紹介、教育上の関心・テーマについて 授業：オリエンテーション（授業時の情報メディア活用の説明を含む）、「教育」とは？（問題意識の確認） 復習：「教育」とは何であるか（「教育」とその「方法」の問題意識の確認）	
2	八木 浩雄	【第 2 回】 予習：前回授業の内容の確認（小レポート内容の把握） 授業：「教育」とは（「教育」と「学校教育」） 復習：「教育」の意味を踏まえた上での、日頃の取り組みについての振り返り	
3	八木 浩雄	【第 3 回】 予習：前回授業の内容の確認（「教育」の意味するところの理解と「学校」の意義） 授業「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）？教育史概観①：歴史を学ぶ意義？ 復習：世界史の把握	
4	八木 浩雄	【第 4 回】 予習：前回授業の内容の確認（世界史特に西洋の歴史の把握（高校での世界史程度）） 授業「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）？教育史概観②：教育についての変遷（西洋史より）？ 復習：世界史の把握（時代・社会の変化と「教育」の関係について）	
5	八木 浩雄	【第 5 回】 予習：前回授業の内容の確認（古代？中世？近世・近代？現代までの特色） 授業「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）？教育史概観③：教育思想の視点から？ 復習：教育思想家のポイント等の整理（「教育史」から今日的課題へ）	
6	八木 浩雄	【第 6 回】 予習：前回授業の内容の確認（今日までに形成された「教育」的視点と方法の把握） 授業：教育方法と学習（授業を構成する基礎的要件、教授＝学習の関係） 復習：「教授」・「学習」・「陶冶」等の整理	
7	八木 浩雄	【第 7 回】 予習：前回授業の内容の確認（「教育」≠「伝達」ではないことへの理解） 授業：今日の社会状況と教育課題（教育方法の在り方（アクティブ・ラーニング）について） 復習：学校教育における「生きる力」について	
8	八木 浩雄	【第 8 回】 予習：前回授業の内容の確認（基本的な PC 操作の理解） 授業：情報メディアと教育方法・学習について①？ICT 教育と学習環境（情報機器の基礎的活用）？ 復習：「生きる力」と「知識基盤社会」について	
9	八木 浩雄	【第 9 回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：情報メディアと教育方法・学習について②？情報メディアの活用と教育方法（授業を視野に入れた適切な活用）？ 復習：情報メディアと子どもに関するニュース等の確認	

10	八木 浩雄	【第 10 回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：情報メディアと教育方法・学習について③?教材研究と「知識基盤社会」（情報モラルを含む教育方法な在り方について）? 復習：情報メディアは「子ども」たちにとっての教材であるかどうかの考察						
11	八木 浩雄	【第 11 回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：教育方法の考案と実践①（学習評価の基礎的な考え方とアクティブ・ラーニング）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：教育課程の構造の復習						
12	八木 浩雄	【第 12 回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：教育方法の考案と実践②（自己研鑽と協同、学習評価の基礎的な考え方）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：学習指導要領等に記載されている内容との確認						
13	八木 浩雄	【第 13 回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：教育方法の考案と実践③（教育実践の情報の蓄積と活用上の留意点）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：記録化の重要性（PDCA サイクルを踏まえて）とその際の留意点の再整理						
14	八木 浩雄	【第 14 回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：今後の教育の在り方について（これまでの内容の補足を含む）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習：様々な視点から物事を捉える姿勢の確認						
15	八木 浩雄	【第 15 回】 予習：前回授業の内容の確認 授業：授業のまとめ（11 回目?14 回目までの活動の予備日としても使用する） 復習：今後の自身の課題について						
授業開始前学習		「教育」という営みについての自分なりのイメージを持って授業に臨んでほしい。 また、授業後半で情報メディア機器を使用することから、自身の PC やスマートフォン操作についても慣れておいて欲しい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で小レポートを用いて、自分の意見を述べてもらうことを行いたいと考えている。 その意見に応じて、次の授業のスライド（板書）等でコメントを返し、双方向性のある内容を構築したいと考えている。また、授業後半で予定している発表では、他の発表者の発表の仕方を通して、自身の発表の仕方を振り返る機会に生かしてもらいたいと考えている。						
テキスト・教材		1 回目の授業以降、テキストに応じたプリント資料を配布する。						
参考書		参考書・参考資料等 中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 またその他については授業内容に応じて適宜紹介する。						
評価の基準と方法		評価に当たっては、授業内課題（発表を含む、50%）と提出課題（レポート、50%）を総合して、60%以上の評価を受けた者が単位認定となる。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成			社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「教育」に関する科目並びに教職系科目と大に関連する。また、教育方法の歴史を扱う際に、世界史の知識を必要とする。							
その他	毎回の授業が、前回の内容の積み重ねで進めていくため、授業後の内容把握としての復習は是非お願いしたい。 「情報メディア機器の活用」を取り扱う際に、コンピュータ並びにスマートフォン等の各自の理解の程度を確認することがある為、留意してもらう場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	110-411-21	授業コード	O80222
科目名称	ICT 活用の理論と方法	単位数	1.0 単位
英文名称	ICT Utilization, Theory and Method	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	八木 浩雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八木 浩雄	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	学校教育での ICT 活用の実際を理解し、授業や校務等での ICT 活用の方法を学んでいく。 尚、学校教育での ICT 活用は、現在進行形で取り組まれている部分もある為、学生自身が身近に使用しているスマートフォン・アプリを例にタブレット活用の可能性も考えていく。		
到達目標	・コンピュータやタブレット（スマートフォンを含む）をはじめとした情報メディア機器を教育活動の中で活用することができる。 ・学校教育での ICT 活用の実際が理解できる。 ・生徒に対して情報メディア機器を活用する上での留意点を指導することができる。（情報モラルを含む。）		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	八木 浩雄	【第 1 回】 予習 : 簡単な自己紹介、教育上の関心・テーマについて 授業 : オリエンテーション（授業時の情報メディア活用の説明を含む）、コンピュータ（以下 PC）操作の確認 復習 : 本授業で説明した操作等の復習確認	
2	八木 浩雄	【第 2 回】 予習 : PC・スマホでの検索練習 授業 : web 検索操作①（基本的な検索操作） 復習 : 操作等の復習確認（PC・スマホでの検索操作）	
3	八木 浩雄	【第 3 回】 予習 : 授業準備に応じた情報収集の練習 授業 : web 検索操作②（応用的な検索操作、ポータルサイトの活用） 復習 : 操作等の復習確認（PC・スマホでの検索操作）	
4	八木 浩雄	【第 4 回】 予習 : Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業 : web サービスの活用①（Google サービス、スマホアプリ等） 復習 : 操作等の復習確認（スマホの場合はアプリの確認）	
5	八木 浩雄	【第 5 回】 予習 : Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業 : 文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用①（例：Google サービスの活用、登録等について） 復習 : 操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）	
6	八木 浩雄	【第 6 回】 予習 : Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業 : 文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用②（操作とオンライン・ドライブ） 復習 : 操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）	
7	八木 浩雄	【第 7 回】 予習 : Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業 : 文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用③（資料作成…入力） 復習 : 操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）	
8	八木 浩雄	【第 8 回】 予習 : Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業 : 文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用④（資料作成…編集） 復習 : 操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）	
9	八木 浩雄	【第 9 回】 予習 : Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業 : 文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用⑤（課題作成） 復習 : 操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）	
10	八木 浩雄	【第 10 回】 予習 : Google ドライブ（作成ファイル）の確認 授業 : web サービスの活用②（その他のサービス） 復習 : 本授業で説明した操作等の復習確認	

11	八木 浩雄	【第 11 回】 予習：PC・スマホの接続端子等についての把握 授業：文情報メディア機器と周辺機器①（情報発信として） 復習：本授業で説明した操作等の復習確認							
12	八木 浩雄	【第 12 回】 予習：PC・スマホの接続端子等についての把握 授業：情報メディア機器と周辺機器②（周辺機器とアプリの連携した活用） 復習：本授業で説明した操作等の復習確認							
13	八木 浩雄	【第 13 回】 予習：Google ID 等の把握（ドライブへのアクセス確認など） 授業：PC とタブレット（スマートフォンを含む）の連携 復習：本授業で説明した操作等の復習確認							
14	八木 浩雄	【第 14 回】 予習：作成課題のテーマ準備 授業：総合課題作成（質疑応答を含む） 復習：本授業で説明した操作等の復習確認							
15	八木 浩雄	【第 15 回】 予習：作成課題の内容検討（提出に向けて作成） 授業：総合課題作成（提出までを含む）、まとめ 復習：本授業で説明した操作等の復習確認							
授業開始前学習		自身の目指す教員免許状に応じた科目に対しての、情報メディア機器の活用について、自分なりに考えておいて欲しい。 情報メディア機器を使用することから、自身の PC やスマートフォン操作についても慣れておいて欲しい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で課題作成や小レポートを用いて、自分の意見を述べてもらうことを行いたいと考えている。 その意見に応じて、次の授業のスライド（板書）等でコメントを返し、双方向性のある内容を構築したいと考えている。 また、課題作成を通して発表を行ってもらうため、他の発表者の発表の仕方を通して、自身の発表の仕方を振り返る機会に生かしてもらいたいと考えている。							
テキスト・教材		テキストに応じたプリント資料を配布する。							
参考書		中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 またその他については授業内容に応じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法		評価に当たっては、授業内課題（発表を含む、50％）と提出課題（レポート、50％）を総合して、60％以上の評価を受けた者が単位認定となる。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	△	◎	○
関連科目		情報メディア機器を操作することから、PC 等の操作を扱った授業内容の復習を行っておいて欲しい。							
その他		毎回の授業が、前回の内容の積み重ねで進めていくため、授業後の内容把握としての復習は是非お願いしたい。 「情報メディア機器の活用」を取り扱う際に、コンピュータ並びにスマートフォン等の各自の理解の程度を確認することがある為、用意してもらう場合がある。							
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容									

☆生徒指導論（進路指導を含む）／生徒指導の研究

科目分類	110-411-12	授業コード	O80520
科目名称	☆生徒指導論（進路指導を含む）／生徒指導の研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Methods for Student Guidance and Career Guidance	授業区分	講義
科目責任者	田中 正浩	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 正浩	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	授業で得た知識や理論が教職を目指す受講生の力量形成の一助となることを主眼に置き、生徒指導（進路指導も含む）の意義と役割、さらには指導機能が働く実際の場面と諸問題について実践例を取り上げながらできる限り詳細かつ具体的に解説し、理解を深めていく。		
到達目標	本授業では、生徒指導（進路指導も含む）の理論を理解し、実際の場面（教育相談、進路指導場面も含む）で用いられる児童理解の方法、集団・個別指導の方法等といった実践的能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田中 正浩	【第 1 回】 予習：シラバス（本教科の授業テーマ・内容及び到達目標等）読んでおく 授業：生徒指導の意義と原理 復習：生徒指導の原理について整理する	
2	田中 正浩	【第 2 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：教育課程における生徒指導 復習：教育課程と生徒指導の関連性について整理する	
3	田中 正浩	【第 3 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：児童生徒理解の意義と方法 復習：児童生徒理解の方法について整理する	
4	田中 正浩	【第 4 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：学校における生徒指導体制 復習：生徒指導体制について整理する	
5	田中 正浩	【第 5 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導の在り方と方法原理 復習：生徒指導の方法原理について整理する	
6	田中 正浩	【第 6 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導に生かす教育相談 復習：教育相談について整理する	
7	田中 正浩	【第 7 回】 予習：配付資料について読んでおく 授業：学級担任が行う生徒指導 復習：学級担任による生徒指導について整理する	
8	田中 正浩	【第 8 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：進路指導の意義と原理 復習：進路指導の原理について整理する	
9	田中 正浩	【第 9 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：教育課程における進路指導 復習：教育課程と進路指導の関連性について整理する	
10	田中 正浩	【第 10 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：進路指導の在り方と方法原理 復習：進路指導の方法原理について整理する	
11	田中 正浩	【第 11 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導に関する法令等の理解 復習：生徒指導に関する法令について整理する	

12	田中 正浩	【第 12 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：暴力行為、いじめ、不登校等の理解と対応(プレゼンテーション) 復習：暴力行為、いじめ、不登校への対応について整理する							
13	田中 正浩	【第 13 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：飲酒、喫煙、薬物乱用、自殺予防等の理解と対応（プレゼンテーション） 復習：飲酒、喫煙、薬物乱用、自殺予防等への対応について整理する							
14	田中 正浩	【第 14 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導と他機関連携 復習：生徒指導における他機関との連携及び実務の実際について整理する							
15	田中 正浩	【第 15 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導の動向と課題（グループ・ディスカッション） 復習：生徒指導の課題について整理する							
授業開始前学習		今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等について、書物などを通して情報を得ておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。							
テキスト・教材		文部科学省『生徒指導提要』（教育図書）最新版 このほか適宜、資料プリントを配付する。							
参考書		授業にて、適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		小テスト（20％）、試験（60％）、平常点【授業への取組・課題提出】（20％）により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケー ーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことので きる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケー ーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎	○	○	
関連科目		本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。							
その他		予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業では、受講生自身の体験等をもとに意見発表や討論を行ってもらう。問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。							
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容									

科目分類	110-411-23 (J)	授業コード	O80540
科目名称	教育実習指導	単位数	1.0 単位
英文名称	Teaching Practice Guidance	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	次年度教育実習に行く前段階として、教員に必要な識見、態度、技能を得るための学習を行う。		
到達目標	教育実習の意義を認識し、実習時の実践的指導に必要となる基礎的な指導力を身につける。 教育実習における注意点を自分のことばで説明することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	中野 達也	【第 1 回】 予習 : 01/02/03 を読み、ポイントをまとめる。 授業 : 01/02/03 「教育実習って、何だろう？」「教育実習の服装や持ち物は？」「教育実習までの流れは？」(グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 自分の教育実習の目的と意義をまとめる	
2	中野 達也	【第 2 回】 予習 : 04/05/06 を読み、ポイントをまとめる。 授業 : 04/05/06 「実習校はどう選ぶ？」「どのように決まる？」「事前打ち合わせでは、どんなことをする？」「礼儀・マナーに自信がないのですが？」(グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 自分の教育実習の心得をまとめる	
3	中野 達也	【第 3 回】 予習 : 07/08/09 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 07/08/09 「クラスの子どもたちに、どう接したい？」「先生方とのコミュニケーションはどうとる？」「初日をどう迎える？」(グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 生徒、教員とのコミュニケーションの取り方についてまとめる	
4	中野 達也	【第 4 回】 予習 : 10/12/13/14 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 10/12/13/14 「朝の会・帰りの会はどうしたい？」「学級経営のポイントは？」「給食指導って、どうするの？」「部活動や学校行事への参加は？」(グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 授業外の指導についてまとめる	
5	中野 達也	【第 5 回】 予習 : 15 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 15 「教育実習、こんなときはどうする？」事例に基づいた討論 (グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 具体的事例についてまとめる	
6	中野 達也	【第 6 回】 予習 : 16 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 16 「教育実習はどこを、どう評価される？」(グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 教育実習の評価についてまとめる	
7	中野 達也	【第 7 回】 予習 : 25/29 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 25/29 「国語科の指導案はどう書くの？」「英語科の指導案はどう書くの？」「駒沢学園女子中学・高等学校見学の準備 (教科指導)」(グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 教科指導の注意点をまとめる	
8	中野 達也	【第 8 回】 予習 : 学校見学時の自分の課題を見つける 授業 : 駒沢学園女子中学・高等学校見学 ※状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習 : 学校見学時に発見した自分の課題をまとめる	
9	中野 達也	【第 9 回】 予習 : 30/31 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 30/31 「総合的な学習の時間」の指導法は？」「教育実習にはどんなプロセスがある？」学校見学についてのレポート提出 (グループワーク) (ディスカッション) (発表) 復習 : 専門教科以外の科目についてまとめる	

10	中野 達也	【第 10 回】 予習 : 32/33/34 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 32/33/34 「板書を上手に書くには？」「授業での発問と指名のポイントは？」「ノート指導・机間指導のポイントは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習 : 具体的指導方法についてまとめる							
11	中野 達也	【第 11 回】 予習 : 35/36 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 35/36 「情報機器を使いこなすには？」「授業で配布するプリントはどう作ればいい？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習 : ICT の活用法・教材研究の意義をまとめる							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習 : 37/38 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 37/38「これで安心！研究授業の準備と心得」「研究授業の反省会、気をつけるべきことは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習 : 研究授業についてまとめる							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習 : 39/41/42/43 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 39/41/42/43「実習日誌には、何をどう書けばいい？」「実習日誌がなかなか書けない！」「よりよい実習日誌を書くためのポイントは？」「実習日誌のまとめはどう書けばいいの？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習 : 実習の振り返り方についてまとめる							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習 : 45/46/47/48/49/50 を読み、ポイントをまとめる 授業 : 45/46/47/48/49/50「教員採用試験って、どんな試験？」「教員の待遇は？」「教員採用試験の攻略法は？」「一般教養の勉強方法は？」「教職教養の勉強方法は？」「私学適性検査とは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習 : 教員採用試験に向けた取り組みについてまとめる							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習 : 後期の学びを振り返る 授業 : 「教育実習に臨むにあたり、どのような実習にしたいか決意を述べる」 討論（グループワーク）（ディスカッション）（発表）・後期のまとめ 復習 : 4 年次の実習に向け、自己研鑽課題をまとめ、教育実習に備える							
授業開始前学習		既修得の教育職員養成課程科目の教科書及び実際の中学校・高等学校の現場を理解できるような本を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各回提出のレポートは個別にフィードバックを行い、指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材		「教育実習完璧ガイド」 宮崎猛・小泉博明編著 小学館							
参考書		授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業への参加度（発表を含む） 3 0 %、レポート 3 0 %、定期試験 4 0 %を総合して評価する							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	△
関連科目									
その他		遅刻、無断欠席は認めない。 中学校・高等学校見学について、詳細な実施日程は講義開始後に決定する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

教育実習 I (中学校)

科目分類	110-411-24（J）			授業コード	O80600
科目名称	教育実習Ⅰ(中学校)			単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching PracticeⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。				
到達目標	・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	【第 1 回】 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。			
2	中野 達也	【第 2 回】 実習校を訪問する。 ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。			
3	中野 達也	【第 3 回】 実習開始 ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの講評 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 教材研究 指導案作成（時間配分・留意点・指導計画・指導目標等） ・実習日誌を記載する。			
4	中野 達也	【第 4 回】 実習終了 ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。			
5	中野 達也	【第 5 回】 大学に戻る。 ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。 ・実習校にお礼状を書く。			
授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前に書いておくことが望ましい。				
授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。				
テキスト・教材	初回の授業で指示する。				
参考書					

評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう、注意深く考えて行動すること。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

☆教育実習Ⅱ(高等学校)／教育実習(高等学校)

科目分類	110-411-24（J）		授業コード	O80620	
科目名称	☆教育実習Ⅱ(高等学校)／教育実習(高等学校)		単位数	2.0 単位	
英文名称	Teaching PracticeⅡ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	中野 達也		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	中野 達也		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-508	
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。				
到達目標	・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	【第 1 回】 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。			
2	中野 達也	【第 2 回】 実習校を訪問する。 ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。			
3	中野 達也	【第 3 回】 実習開始 ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの報告 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 教材研究 指導案作成（時間配分・留意点・指導計画・指導目標等） ・実習日誌を記載する。			
4	中野 達也	【第 4 回】 実習終了 ・実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。			
5	中野 達也	【第 5 回】 大学に戻る。 ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。			
6	中野 達也	【第 6 回】 実習校にお礼状を書く。			
	中野 達也				

	中野 達也							
	中野 達也							
	中野 達也							
	中野 達也							
	中野 達也							
	中野 達也							
	中野 達也							
	中野 達也							
授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前に書いておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。							
テキスト・教材	初回の授業で指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう注意深く考えて行動すること。実習校謝礼等 18,000円。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

教職実践演習（中・高）

科目分類	110-411-24（J）			授業コード	O80750
科目名称	教職実践演習（中・高）			単位数	2.0 単位
英文名称	Teacher Training Practice Seminar (Junior High School and High School)			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	これまでの教職課程で身につけたこと、課題であることを明らかにして、不足している知識や技能等を演習等により補い、定着を図ることにより、教員としての最低限必要な資質能力を身につける。				
到達目標	・教育実習や 3 年時までの活動を通じて身に付けた能力を自覚することができる。 ・教職に就いた際の自らの課題を探究し、不足している知識や技能を学ぶ計画を立てることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：第 1 章・第 2 章を読み、ポイントをまとめる。 授業：第 1 章「教職実践演習とは」、第 2 章「教科等の指導：教育実習のふり返り」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「教職実践演習」という授業の意義についてまとめる			
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：第 3 章を読み、ポイントをまとめる。 授業：第 3 章「教科等の指導：学習指導要領内容」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「教科指導：学習指導要領」についてまとめる			
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：第 4 章・第 5 章・第 6 章を読み、ポイントをまとめる 授業：第 4 章「教科等の指導：学習指導案作成の重要性とその意義」、第 5 章「教科等の指導：学習指導案の作成と授業の展開・工夫」、第 6 章「教科等の指導：模擬授業」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「学習指導案の作成」についてまとめる			
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：第 7 章を読み、ポイントをまとめる 授業：第 7 章「教科等の指導：道徳教育と特別活動」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「道徳教育及び特別活動」についてまとめる			
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：第 8 章を読み、ポイントをまとめる 授業：第 8 章「生徒理解：子どもの発達理解」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「子どもの発達」についてまとめる			
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：第 9 章を読み、ポイントをまとめる 授業：第 9 章「9. 生徒理解：生徒指導と教育相談」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「生徒指導と教育相談」についてまとめる			
7	中野 達也	【第 7 回】 第 10 章を読み、ポイントをまとめる 授業：第 10 章「生徒理解：特別支援教育」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「特別支援教育」についてまとめる			
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：第 11 章を読み、ポイントをまとめる 授業：第 11 章「学級経営：学級経営のあり方について」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習：「学級経営」についてまとめる			
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：自分の教育実習を振り返り、見学時のポイントをまとめる 授業：中学校授業見学 ※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習：授業見学について振り返るレポートをまとめる			

10	中野 達也	【第 10 回】 予習 : 第 1 2 章を読み、ポイントをまとめる 授業 : 第 12 章「社会性や対人関係力 : 教師のコミュニケーション力?組織の一員として・児童生徒に対して」 (グループワーク) (ディスカッション) (プレゼンテーション) 復習 : 「教師のコミュニケーション力」についてまとめる。お礼状を書く							
11	中野 達也	【第 11 回】 予習 : 第 1 3 章を読み、ポイントをまとめる 授業 : 第 13 章「社会性や対人関係力 : 保護者・地域社会への対応について」(グループワーク) (ディスカッ ション) (プレゼンテーション) 復習 : 「保護者・地域社会への対応」についてまとめる							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習 : 外部講師の講演に備えて、質問事項を考える 授業 : 外部講師講演 (ディスカッション) ※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は別課題を用意する 復習 : 外部講師講演内容・討論内容をまとめる							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習 : 第 1 4 章を読み、ポイントをまとめる 授業 : 第 14 章「教師としての使命感・責任感、倫理観、教育的愛情」(グループワーク) (ディスカッション) (プレゼンテーション) 復習 : 「教師としての使命感・責任感」についてまとめる							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習 : 国際化推進における教師の役目について調べる 授業 : 外部講師講演「外国語教育と国際化」(ディスカッション) 復習 : 外部講師講演内容・討論内容をまとめる							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習 : 第 1 5 章を読み、ポイントをまとめる 授業 : 第 15 章「まとめ : 教師の力量とキャリア形成?自己成長の重要性」(グループワーク) (ディスカッション) (プレゼンテーション)、後期のまとめ 復習 : 教職課程で学んだことを活かし、教師になったときに一番伝えたいことをまとめる							
授業開始前学習		今までの教職課程で学んだことを整理しておくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		各回提出のレポートは、GWSE を活用して個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。							
テキスト・教材		「自己成長を目指す教職実践演習に」 原田 恵理子、森山 賢一著 北樹出版							
参考書		その都度紹介する							
評価の基準と方法		授業への参加度 (発表を含む) 3 0 %、レポート 3 0 %、定期試験 4 0 %を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケー ション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことので きる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーシ ョン力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○				◎	○
関連科目									
その他		遅刻、無断欠席は認めない。教育現場を訪問する (交通費各自負担)。 見学校、外部講師の都合により実施日を変更する可能性がある。							
予習・復習の 所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容		中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求めら れる資質・能力についての講義・演習を行う。							

〈学校図書館司書教諭課程科目〉

学校経営と学校図書館

科目分類	110-411-13 (J)	授業コード	O80680
科目名称	学校経営と学校図書館	単位数	2.0 単位
英文名称	School Management and School Library	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	司書教諭課程の総論的な内容である。学校図書館の理念と課題、法制度、司書教諭の役割について理解する。		
到達目標	1 学校図書館の教育的な意義と役割について説明ができる。 2 学校図書館に関する法律および政策について説明できる。 3 司書教諭の役割について説明できる。 4 学校図書館運営の方法についての実践的なスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	平井 孝明	【第 1 回】 予習 : 各自がこれまでに経験してきた学校図書館を振り返り、学校図書館に関するイメージを持つ。 授業 : 学校図書館の“いま”と司書教諭の役割、理想の学校図書館とは。(発表) 復習 : 「学校図書館」を取り扱った新聞記事を探し、次回発表できるよう要約しておく。	
2	平井 孝明	【第 2 回】 予習 : テキスト 2 5 頁から 2 8 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校教育の変遷と学校図書館 復習 : 学校図書館の意義と役割の変化について考察する。	
3	平井 孝明	【第 3 回】 予習 : テキスト 2 8 頁から 3 3 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館の歴史 復習 : 学校図書館の歴史的変遷を整理する。	
4	平井 孝明	【第 4 回】 予習 : テキスト 4 2 頁から 5 3 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館法をめぐる法体系 復習 : 学校図書館法について、関係する法規を参照して考察する。	
5	平井 孝明	【第 5 回】 予習 : 最新の「学校図書館調査報告」(全国学校図書館協議会)を事前に読み、要点や疑問点をメモしてくる。 授業 : 教育行政と学校図書館 復習 : 「図書館の自由」について取り扱った新聞記事を探しまとめる。	
6	平井 孝明	【第 6 回】 予習 : テキスト 8 0 頁から 8 6 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校の教育課程と学校図書館 復習 : 「カリキュラム・マネジメント」について説明できるよう整理する。	
7	平井 孝明	【第 7 回】 予習 : テキスト 9 0 頁から 1 0 3 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館の経営 復習 : 学校図書館の「間接的支援」「直接的支援」および「教育指導への支援」について整理する。	
8	平井 孝明	【第 8 回】 予習 : テキスト 1 0 4 頁から 1 1 1 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館担当者の役割と任務 復習 : 司書教諭、学校図書館担当者が果たすべき役割について、多角的な視点から考察する。	
9	平井 孝明	【第 9 回】 予習 : テキスト 1 1 1 頁から 1 3 0 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館の評価と改善、学校図書館経営の実例 1 施設・設備 復習 : 「学校図書館評価基準」「学校図書館施設基準」について内容を確認する。	
10	平井 孝明	【第 10 回】 予習 : テキスト 1 3 0 頁から 1 4 4 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館経営の実例 2 学校図書館メディアの種類と活用、3 学校図書館の広報活動 復習 : どのようなメディアが学校図書館にあるべきか、どのような広報活動ができるか考察を行う。	

11	平井 孝明	【第 11 回】 予習 : テキスト 1 4 7 頁から 1 5 9 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 学校図書館の教科・授業への支援 復習 : 「授業に役立つ学校図書館活用データベース」を参照し、学校図書館の授業支援について実践事例を学ぶ。						
12	平井 孝明	【第 12 回】 予習 : テキスト 1 6 0 頁から 1 7 5 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 学校図書館の探究的な学習、情報教育への支援 復習 : 木下通子著『知りたい気持ちに火をつけろ! 』（岩波ジュニア新書）等を読み、学校図書館における探究学習支援の実践を学ぶ。						
13	平井 孝明	【第 13 回】 予習 : テキスト 1 7 5 頁から 1 8 4 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 学校図書館の特別活動への支援 復習 : 特別活動における図書委員会活動の教育的意義を整理する。						
14	平井 孝明	【第 14 回】 予習 : テキスト 1 8 5 頁から 1 9 9 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 学校図書館の連携・相互協力 復習 : 学校図書館のネットワークを運用する上での課題を考える。						
15	平井 孝明	【第 15 回】 予習 : これまで学んだ内容を元に、学校図書館の課題にはどのようなものがあるか考えておく。 授業 : 学校図書館の展望と課題 復習 : 学校図書館を取り巻く課題をもとに、解決に向けた取り組みについて考察を深める。						
授業開始前学習		ふだんから大学図書館や公共図書館を使い慣れておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。						
テキスト・教材		全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会編著 『探究 学校図書館学 第 1 巻 学校経営と学校図書館』（全国学校図書館協議会）						
参考書		適宜、講義内にて指示する。						
評価の基準と方法		授業内課題（40％）と、授業内での試験（60％）で評価する。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	司書教諭資格取得に必要な 5 科目のうちの 1 つである。 他の 4 科目は「読書と豊かな人間性」、「学校図書館メディアの構成」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。							
その他	学校図書館業務は少人数（あるいは単独）で行うことが多く、一人が担う責任は重い、その分やりがいも大きい。 また、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割を果たすため、図書館メディアの選定・受入れから教育的支援まで職務の範囲は広い。 児童・生徒、教職員に信頼され、にぎわいのある楽しい図書館を運営できるよう、実践重視の講義を行う。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

学校図書館メディアの構成

科目分類	110-411-13 (J)	授業コード	O80700
科目名称	学校図書館メディアの構成	単位数	2.0 単位
英文名称	School Libraries and Media Resources	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	学校図書館が扱うメディアについて、種類と特性、出版と流通、その構築に必要な収集方針、選択基準、その他の諸作業を解説する。 また、それらを効果的に提供する方法について実践的に学習する。		
到達目標	1 学校図書館に必要なメディアの特性を理解し、必要な資料を収集選択することができる。 2 学校図書館で資料をわかりやすく利用させるための組織化の基礎を理解できる。 3 資料の排架やレイアウトを知り、使いやすい学校図書館運用の必要性を理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	平井 孝明	【第 1 回】 予習 : 自分が体験した学校図書館にはどんなメディアがあったか振り返っておく。 授業 : 学校教育と学校図書館メディア 復習 : 学校図書館の機能を整理するとともに、本講義で学ぶ内容について概略を押さえる。	
2	平井 孝明	【第 2 回】 予習 : テキスト 1 9 頁から 2 7 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館メディアの種類と特性 1 (印刷メディア、視聴覚メディア、ファイル資料など) 復習 : 学校図書館にある基本的なメディアについて整理し、それぞれの特性を理解する。	
3	平井 孝明	【第 3 回】 予習 : テキスト 2 7 頁から 3 7 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館メディアの種類と特性 2 (電子メディア、特別な教育的ニーズに応えるメディア) 復習 : LLブック等、特別な教育的ニーズに応える学校図書館メディアに実際に触れ、それぞれの特性を理解する。	
4	平井 孝明	【第 4 回】 予習 : 出版社、取次、大型書店について、どんな企業があるか調べておく。 授業 : 学校図書館メディアの出版と流通 (発表) 復習 : 出版流通制度の仕組みについて整理する。	
5	平井 孝明	【第 5 回】 予習 : テキスト 3 8 頁から 5 1 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館のコレクション構築 1 (メディアの選択と収集方針) 復習 : 学校図書館機能を発揮するためのコレクション構築とその収集プロセスについて考察する。	
6	平井 孝明	【第 6 回】 予習 : テキスト 5 1 頁から 6 9 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館のコレクション構築 2 (学校図書館メディア選択のためのツール) (実習) 復習 : 学校図書館メディア選択のためのツールを活用し、課題に出されたテーマについての選定リストを完成させる。	
7	平井 孝明	【第 7 回】 予習 : テキスト 6 9 頁から 7 7 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館のコレクション構築 3 (コレクションの評価および更新、廃棄) 復習 : 蔵書の更新、廃棄について、「学校図書館協議会」のHPを参照し、内容を考察する。	
8	平井 孝明	【第 8 回】 予習 : テキスト 7 9 頁から 8 8 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館メディア組織化の意義と展開 復習 : 書店や各種図書館を訪問し、配架や案内表示について「利便性」に着目し見学する。	
9	平井 孝明	【第 9 回】 予習 : テキスト 9 0 頁から 1 1 3 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館メディア組織化の実際 1 (目録法) (実習) 復習 : 日本目録規則 (NCR) を参照し、目録作成についての演習問題を復習する。	
10	平井 孝明	【第 10 回】 予習 : テキスト 1 1 6 頁から 1 2 2 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館メディア組織化の実際 2 (主題索引法 ①分類法－日本十進分類法) 復習 : 分類の意義、日本十進分類法 (NDC)、請求記号について理解する。	

11	平井 孝明	【第 11 回】 予習 : テキスト 1 2 2 頁から 1 2 9 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館メディア組織化の実際 3 (主題索引法 ①分類法－分類作業の実際) (実習) 復習 : 演習問題で取り扱った分類について、実際の大学図書館の書架を確認する。							
12	平井 孝明	【第 12 回】 予習 : テキスト 1 2 9 頁から 1 4 1 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館メディア組織化の実際 4 (主題索引法 ②件名表目法) 復習 : 件名の意義、件名標目法について理解する。							
13	平井 孝明	【第 13 回】 予習 : 学校・大学・公共図書館で各種メディアがどう装備され提供されているか確認しておく。 授業 : 学校図書館メディアの O P A C への登録と装備 (実習) 復習 : 学校図書館メディアの受入れの手順を確認する。							
14	平井 孝明	【第 14 回】 予習 : オンラインデータベースにはどんな種類のものがあるか調べておく。 授業 : 学校図書館メディアのネットワーク情報資源 (実習) 復習 : 新聞データベースや政府統計「e-Stat」等を使いこなせるよう復習する。							
15	平井 孝明	【第 15 回】 予習 : 学習全体を通し、学んだことを振り返る。 授業 : まとめと振り返り 復習 : 司書教諭としてどのように学校図書館メディアを組織していくか考察する。							
授業開始前学習		ふだんから大学図書館や公共図書館を使い慣れておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。							
テキスト・教材		全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会編著 『探究 学校図書館学 第 2 巻 学校図書館メディアの構成』 (全国学校図書館協議会)							
参考書		適宜、講義内にて指示する							
評価の基準と方法		授業内課題 (40%) と、授業内での試験 (60%) で評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケー ション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことので きる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となる ための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケー ション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		司書教諭資格取得に必要な 5 科目のうちの 1 つである。 他の 4 科目は「学校経営と学校図書館」、「読書と豊かな人間性」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。							
その他		学校図書館業務は少人数 (あるいは単独) で行うことが多く、一人が担う責任は重い、その分やりがいも大きい。 また、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割を果たすため、図書館メディアの選定・受入れから教育的支援まで職務の範囲は広い。 児童・生徒、教職員に信頼され、にぎわいのある楽しい図書館を運営できるよう、実践重視の講義を行う。							
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容		東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。 他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

科目分類	110-411-13 (J)	授業コード	O80720
科目名称	読書と豊かな人間性	単位数	2.0 単位
英文名称	Theories of Reading and Personal Development in Schools	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	読書の意義を理解するとともに、児童・生徒の豊かな人間性を育むための司書教諭の役割を考える。 児童・生徒、それぞれの発達段階に応じた適切な読書指導を学び、具体的な方法を身に付ける。		
到達目標	1 児童・生徒の発達段階に応じた実践的な読書指導の方法を身につける。 2 子どもの読書資料についての知識を深める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	平井 孝明	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認して授業の全体像を把握する。また自らの読書体験を振り返っておく。 授業 : 読書の意義と目的 復習 : 読書の意義について理解を深める。	
2	平井 孝明	【第 2 回】 予習 : 「読解力」について関連書を読み自分なりの考えをまとめておく。 授業 : 今、求められる「読解力」、「リーディングスキルテスト」体験版（実習） 復習 : OECD の生徒の学習到達度調査（PISA）について新聞データベースで記事を探しまとめる。	
3	平井 孝明	【第 3 回】 予習 : テキスト 1 3 頁から 2 6 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 読書指導と学校図書館 復習 : 国や地方自治体の取り組みについて整理する。	
4	平井 孝明	【第 4 回】 予習 : テキスト 2 8 頁から 4 1 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 読書教育の系譜 復習 : 子どもの本の変遷について、国立国会図書館デジタルアーカイブ等を利用し代表作の内容を確認する。	
5	平井 孝明	【第 5 回】 予習 : 中学生、高校生にどんな本が読まれているか「学校読書調査」を調べておく。 授業 : 子どもの読書の実態 復習 : 「学校読書調査」の結果からわかる特徴を考察する。	
6	平井 孝明	【第 6 回】 予習 : テキスト 7 2 頁から 7 7 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 発達段階に応じた読書指導 復習 : テキストを読み返し、クリティカルシンキングの視点から読書指導について考察する。	
7	平井 孝明	【第 7 回】 予習 : テキスト 7 8 頁から 8 9 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 子どもの本の種類と提供、新書を使った「点検読書」（実習） 復習 : 新書を使った「点検読書」を指導できるよう復習しておく。	
8	平井 孝明	【第 8 回】 予習 : テキスト 9 0 頁から 9 5 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 読書環境の整備 復習 : 読書資料の種類と日本十進分類法に関する知識を整理する。	
9	平井 孝明	【第 9 回】 予習 : 絵本の「読み聞かせ」に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。 授業 : 子どもと本を結ぶための方法 ①読み聞かせ（発表） 復習 : 絵本の「読み聞かせ」に関する知識・技能を整理し、実技の復習をする。	
10	平井 孝明	【第 10 回】 予習 : テキスト 1 1 0 頁から 1 1 9 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 各教科等での読書指導、子どもと本を結ぶための方法 ②ブックトーク（発表） 復習 : テーマに沿って 5 冊から 1 0 冊を紹介するブックトークのストーリーを考える。	
11	平井 孝明	【第 11 回】 予習 : テキスト 1 1 9 頁から 1 2 2 頁まで読み、疑問点などをメモしておく。 授業 : 探究的な学習と読書指導、子どもと本を結ぶための方法 ③ストーリーテリング、読書会、POP の作成（実習）	

		復習　：経験と講義を踏まえて学校での読書指導のあるべき姿を考察する。						
12	平井 孝明	【第 12 回】 予習　：ビブリオバトルのルールを確認し、発表できるよう準備しておく。 授業　：子どもと本を結ぶための方法 ④ビブリオバトル（発表） 復習　：ビブリオバトルの実践を振り返り、知識・技能を整理する。						
13	平井 孝明	【第 13 回】 予習　：テキスト1 7 3 頁から1 8 3 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：個に応じた読書指導 復習　：障害のある児童生徒、外国にルーツのある児童生徒への読書指導について考察する。						
14	平井 孝明	【第 14 回】 予習　：テキスト1 8 5 頁から1 9 2 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：地域社会との連携 復習　：地域社会との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について考察する。						
15	平井 孝明	【第 15 回】 予習　：これまでの学習内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい点を抽出しておく。 授業　：学校図書館における読書の現状と今後の課題 復習　：学校図書館における読書活動および読書指導について、今後の課題について考察する。						
授業開始前学習		公共図書館のヤングアダルトコーナー、児童コーナーを見学しておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。						
テキスト・教材		全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会編著 『探究 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性』（全国学校図書館協議会）						
参考書		適宜、講義内にて指示する。						
評価の基準と方法		授業内課題（40％）と、授業内での試験（60％）で評価する。						
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△			◎	○	○	
関連科目	司書教諭資格取得に必要な5科目のうちの1つである。 他の4科目は「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディアの構成」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。							
その他	実際の本に触れる機会を多く設け、本についての知識を深める。 また、実習中心の授業とし、実践に活かせるの指導法の習得を目指す。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。 他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

科目分類	110-411-13 (J)	授業コード	O80740
科目名称	学習指導と学校図書館	単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching Methods (School Libraries)	授業区分	講義
科目責任者	平井 孝明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井 孝明	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	学校教育における学校図書館の機能と役割、情報活用能力の育成、学習指導での司書教諭の役割を学ぶ。		
到達目標	1 学習・情報センターとしての学校図書館の役割を説明できる。 2 情報活用能力の育成について考察できる。 3 学校図書館を効果的に活用した探究学習の展開方法を考えることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	平井 孝明	【第 1 回】 予習 : これまでに受けた学校図書館での授業についてふりかえりを行う。 授業 : 現代の学校教育と学校図書館 復習 : 学校図書館の役割について理解を深める。	
2	平井 孝明	【第 2 回】 予習 : テキスト 2 4 頁から 3 1 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 教育課程の編成と学校図書館 復習 : 教育課程における学校図書館の位置づけを整理する。	
3	平井 孝明	【第 3 回】 予習 : テキスト 3 2 頁から 4 2 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学習指導要領と学校図書館 復習 : 新しい学習指導要領の下での学校図書館活用の可能性について考察する。	
4	平井 孝明	【第 4 回】 予習 : テキスト 4 3 頁から 5 0 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学校図書館における情報活用能力の育成 復習 : 学校図書館においてどのように情報活用能力を育成できるか考察する。	
5	平井 孝明	【第 5 回】 予習 : テキスト 5 2 頁から 6 5 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 情報活用能力の育成と評価 1 課題の設定 (実習) 復習 : 「探究学習企画書」の「分野・題材」を決める。	
6	平井 孝明	【第 6 回】 予習 : テキスト 6 7 頁から 7 5 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 情報活用能力の育成と評価 2 情報の収集 ①資料の収集 (実習) 復習 : 情報を獲得するための読書法「あらまし読み」について復習する。	
7	平井 孝明	【第 7 回】 予習 : テキスト 7 5 頁から 7 8 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 情報活用能力の育成と評価 2 情報の収集 ②情報の読み取りと記録 (実習) 復習 : 「探究学習企画書」で取り組む題材について図書館で情報収集する。	
8	平井 孝明	【第 8 回】 予習 : 事前に配布する資料を参考に、オリエンテーションのプランを考えておく。 授業 : 学校図書館オリエンテーションの意義と方法 (発表) 復習 : 学校図書館オリエンテーションについて意義と方法を整理する。	
9	平井 孝明	【第 9 回】 予習 : テキスト 7 9 頁から 8 7 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 情報活用能力の育成と評価 3 情報の整理・分析 (実習) 復習 : 思考ツールについて、授業で取り上げたもの以外のものも調べ整理する。	
10	平井 孝明	【第 10 回】 予習 : テキスト 8 8 頁から 9 6 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 情報活用能力の育成と評価 4 情報のまとめの表現 復習 : 「TEDx Talks」の中から興味のあるスピーチを視聴し、表現方法について考察する。	

11	平井 孝明	【第 11 回】 予習 : テキスト 9 8 頁から 1 0 8 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 情報サービスと学校図書館 復習 : 「レファレンス協同データベース」を参照し、興味のあるレファレンス事例と回答プロセスを学ぶ。							
12	平井 孝明	【第 12 回】 予習 : レファレンス・コレクションについて整理しておく。 授業 : レファレンスサービスの実践（実習） 復習 : 「レファレンス・インタビュー」の方法について復習する。							
13	平井 孝明	【第 13 回】 予習 : テキスト 1 1 1 頁から 1 2 5 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択 復習 : 学校種別ごとに必要とされる発達段階に応じたメディアについて考察する。							
14	平井 孝明	【第 14 回】 予習 : テキスト 1 2 6 頁から 1 4 0 頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業 : 学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備 復習 : 学校図書館が「学習・情報センター」として活用されるための環境整備について考察する。							
15	平井 孝明	【第 15 回】 予習 : テキスト 1 4 3 頁から 1 6 0 頁まで読み、学校図書館を活用した授業案を考えておく。 授業 : 学校図書館を活用した授業づくり（発表） 復習 : 学校図書館を活用した授業案について改善点をまとめる。							
授業開始前学習		ふだんから大学図書館や公共図書館を使い慣れておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。							
テキスト・教材		全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会編著『探究 学校図書館学 第 3 巻 学習指導と学校図書館』（全国学校図書館協議会）							
参考書		適宜、講義内にて指示する。							
評価の基準と方法		授業内課題（40％）と、授業内での試験（60％）で評価する。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい 教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		司書教諭資格取得に必要な 5 科目のうちの 1 つである。 他の 4 科目は「学校経営と学校図書館」、「読書と豊かな人間性」、「学校図書館メディアの構成」、「情報メディアの活用」である。							
その他		学校図書館業務は少人数（あるいは単独）で行うことが多く、一人が担う責任は重いが、その分やりがいも大きい。 また、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割を果たすため、図書館メディアの選定・受入れから教育的支援まで職務の範囲は広い。 児童・生徒、教職員に信頼され、にぎわいのある楽しい図書館を運営できるよう、実践重視の講義を行う。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。							

科目分類	110-411-13	授業コード	O30240
科目名称	☆情報メディアの活用	単位数	2.0 単位
英文名称	Application of Information Media	授業区分	講義
科目責任者	篠 政行	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	篠 政行	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	4-204
授業概要	この授業は、インターネット、電子メール、SNS、スマートフォンなどを使うことが当たり前となっている今日、情報メディアを通して高度情報社会における人間とのかかわり、特に教育について考え、さらに教職を履修する学生としてどのようなことを身に着けるべきなのか。毎回、授業テーマに対してディスカッションやグループワークを行い理解を深めます。		
到達目標	学校図書館司書教諭過程取得に向けた情報メディアの特性と活用方法が理解できるようになります。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	篠 政行	【第 1 回】 予習：情報の定義を調べる。 授業：オリエンテーション（情報の定義）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：調べた内容と授業での内容をまとめて、自分で情報の定義が言えるようにする。	
2	篠 政行	【第 2 回】 予習：私たちを取り巻く日常で、どんな情報があるのかを考える。 授業：情報と日常生活（情報の具体性と抽象性）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：メディアの定義について調べる。	
3	篠 政行	【第 3 回】 予習：さまざまなメディアの種類を調べておく。 授業：メディアの機能（得意と不得意なこと）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：それぞれのメディアの特徴をまとめる。	
4	篠 政行	【第 4 回】 予習：メディアの役割について考える。 授業：フォト・ドキュメンタリーとビデオ・ドキュメンタリー-1（過去の作品について）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：本日の内容をまとめる。	
5	篠 政行	【第 5 回】 予習：メディアの伝えられることについて考える。 授業：フォト・ドキュメンタリーとビデオ・ドキュメンタリー-2（現代の作品について）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：授業内容をもとに「自分」について考える。（プリント提出）	
6	篠 政行	【第 6 回】 予習：プリント提出の準備を行う。 授業：インターネット上の情報の信頼性と安全性-1（PC のセキュリティ）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：インターネットの信頼性とは何かを調べる。	
7	篠 政行	【第 7 回】 予習：知的所有権について調べる。 授業：インターネット上の情報の信頼性と安全性-2（知的所有権）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：知的所有権についてまとめ、それぞれの特徴を確認する。	
8	篠 政行	【第 8 回】 予習：ドキュメンタリーについて調べておく。 授業：ドキュメンタリーから学ぶ-2（教育現場から 1）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：自分で調べたことと授業で知ったことを整理してまとめる。	
9	篠 政行	【第 9 回】 予習：前回の内容の検討を行う。 授業：ドキュメンタリーから学ぶ-3（教育現場から 2）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）	

10	篠 政行	【第 10 回】 予習：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業：メディアと自分-1（教職を取る学生が考えるべき問題）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）							
11	篠 政行	【第 11 回】 予習：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業：メディアと自分-2（前回の問題についての意見交換）（ディスカッション及びグループワーク）－リアクションペーパーへのコメント提出 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）							
12	篠 政行	【第 12 回】 予習：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業：ドキュメンタリーからメディアを考える-2 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）							
13	篠 政行	【第 13 回】 予習：プレゼンテーションのポイントを絞っておく。 授業：ドキュメンタリーから学ぶ-4（教育との付き合い方） 復習：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）							
14	篠 政行	【第 14 回】 予習：プレゼンテーションの準備を行う。 授業：前期授業のふりかえり 1 -プレゼンテーション 復習：プレゼンテーションの評価と自己評価をまとめる。							
15	篠 政行	【第 15 回】 予習：プレゼンテーションの準備を行う。 授業：前期授業のふりかえり 2 -プレゼンテーションと全体の講評 復習：最終課題レポート							
授業開始前学習		教職を履修する学生が考えるべき問題などを新聞やインターネットから調べておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		プレゼンテーションに関しては、全体の講評を行い、ディスカッション及びグループワークとリアクションペーパーは途中経過の進捗状況を確認しながら、個別に対応します。							
テキスト・教材		プリントと関連資料は、Google-classroom 上にアップします。							
参考書		授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法		プレゼンテーション（30％）、学修態度（20％）、レポート（30％）および毎回のリアクションペーパーへのコメント（20％）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー		自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目									
その他		遅刻、欠席を極力避けること。なお、遅刻、欠席した場合には原則として事前に連絡を行うこと。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									